

第10節 道徳教育（「特別の教科 道徳」を含む。）

第1 道徳科の指導と評価、改善

1 道徳科の授業を振り返って

学校における道徳教育の要が「特別の教科 道徳」（以下「道徳科」という。）である。道徳教育を推進する上で、道徳科の指導の充実は極めて重要な課題であり、道徳科の指導に当たる教師一人一人には、自らの授業を絶えず改善していくことが求められる。

そこで、以下の「道徳授業の振り返りシート」を活用して、現状を把握し、指導の改善・充実に図っていただきたい。

【道徳授業の振り返りシート】

道徳の授業で行っていることに「○」を付けてみよう。

1	年間指導計画に基づいて計画的に実施している。	
2	事前に学習指導要領解説を読み、本時のねらいとする道徳的価値についての理解を深めている。	
3	本時のねらいを意識して学習指導過程を構想している。	
4	ねらいとする道徳的価値から捉えた生徒の実態を踏まえ、指導方法を検討している。	
5	生徒が問題意識をもって学習が始められるよう、導入などを工夫している。	
6	ノートやワークシートに考えたことを書くだけでなく、考えたことを交流させている。	
7	生徒の多様な考えを引き出すよう、発問を工夫している。	
8	生徒がねらいとする道徳的価値の本質を考えることができるよう、発問を工夫している。	
9	指導のねらいに即して、問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験的な学習などを取り入れている。	
10	教材の登場人物に自分を重ね合わせて考えさせるための手立てを講じている。	
11	生徒が自分との関わりで道徳的価値を捉えながら、人間としての生き方について考えられるよう、工夫している。	
12	心情円盤や心情グラフなどを活用し、生徒の心の内を可視化する工夫をしている。	
13	教材の特質、指導の意図に応じて、グループでの話し合いや討論の形式などを取り入れている。	
14	学習を通して気付いたことやこれからの自分の生き方などを考える時間を設けている。	
15	終末では教師の説話だけでなく、生徒に余韻をもたせる工夫を行い、授業後も考えるきっかけを与えるようにしている。	

※上記の結果を踏まえて、学校や生徒の実態に応じた「考え、議論する道徳」を実施していく。
※なお、上記の項目は例であり、各学校の実態に応じて項目を加えるなどして取り組むとよい。

2 道徳科における指導と評価のポイント

(1) 道徳科の指導

道徳科の指導で大切なこと！

- 道徳性を養うために内面的資質である道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。
- 目標の中に示された学習の過程を踏まえて授業を構想する。
- 内容項目を確実に把握して授業に臨む。
- ねらい（道徳的価値）を踏まえ、生徒に何を考えさせ、何に気付かせたいのかを明確にする。
- 目的ではなく手段として、学習指導過程、指導方法、教材・教具等を工夫する。
- 教師が特定の価値観を押し付けたり、指示通りに主体性をもたず言われるままに行動するよう指導したりすることは、道徳教育が目指す方向の対極にあるもの。

ア 道徳科の目標

目標が道徳科の特質そのもの

道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

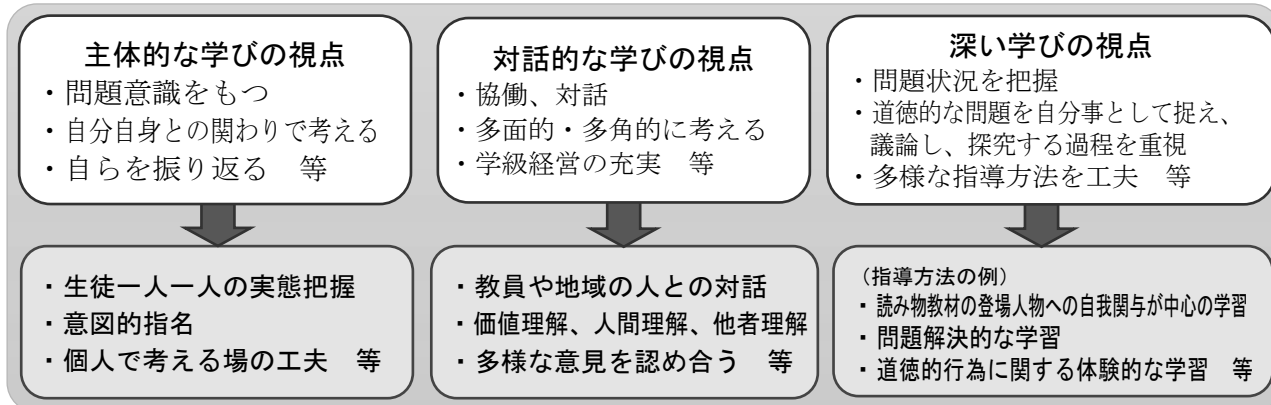
日常生活を送る上であまり意識しておらず、分かりきっていると信じている道徳的価値などについて、道徳科の教材や他者との対話などを手がかりに自己との関わりを問い直す学習。

【道徳性の諸様相】

- 道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践できるような内面的資質
- ・道徳的判断力：善悪を判断する能力。様々な状況下で人間としてどう対処するのがよいかを判断する力。
 - ・道徳的心情：善を喜び、悪を憎む感情。
 - ・道徳的実践意欲：道徳的価値を実現しようとする意志の働き。
 - ・道徳的態度：判断力、心情、意欲に裏付けられた身構え。いつでも道徳的行為ができる状態。

イ 主体的・対話的で深い学び ～「考え、議論する道徳」を目指して～

道徳科において、主体的・対話的で深い学びを実現することは、「考え、議論する道徳」を実現していくことである。



学習指導要領が変わっても指導の本質は変わらない。
教師が道徳の授業で大切なことを理解し授業づくりを楽しむことで、
生徒も授業を楽しむことができる。

(2) 道徳科の評価

道徳科の評価で大切なこと！

- 学習活動に着目して、生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握する。
- 数値による評価ではなく、記述式とする。
- 個々の内容項目ごとではなく、大きくりなまとまりを踏まえ評価する。
- 生徒がいかにか成長したか、認め励ます個人内評価として行う。
- 道徳科は道徳性を養うことをねらって行うが、道徳性は評価しない。
- 学習障害等のある生徒が抱える、学習上の困難さの状況等を踏まえ適切な配慮を行う。
- 調査書には記載しない。
- 学年等で共通理解を図り、組織的に行う。

ア 評価の基本的態度

① 道徳性の評価は行わない

内面的資質である道徳性が養われたか否かは、容易に判断できるものではない。

- ・ 道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度：分節して観点別評価を通じて見取ろうとする
ことも妥当ではない。
- ・ 道徳的価値の理解：どれだけ理解したかなどの基準を設定することはふさわしくない。

② 何を評価するか

学習状況や成長の様子を的確に把握し、評価する。

指導と評価の一体化 指導に生かされ、生徒の成長につながる評価

目標に示された学習活動に着目

- ・ 物事を広い視野から多面的・多角的に考える。
- ・ 自分のこととして、自分との関わりで考える。

道徳性の成長ではなく道徳性に係る成長の様子

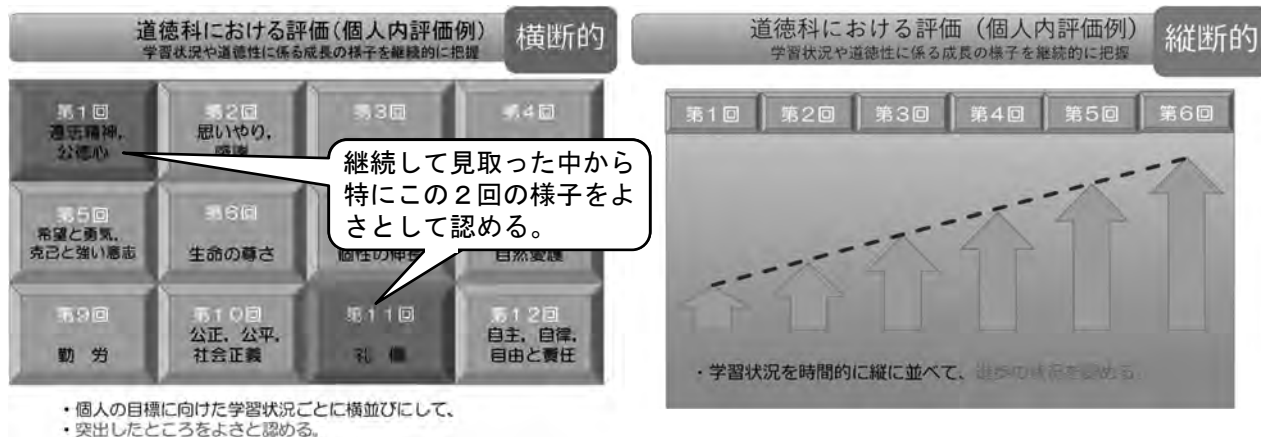
- ・ 道徳性の諸様相育成を目指す学習活動における生徒の様子。
- ・ 道徳的価値との関わりにおいて、物事を広い視野から多面的・多角的に考えたり、自分との関わりで考えたりする学習活動における生徒の様子。

イ 学習状況を見取る評価の視点

道徳的諸価値についての理解に基づいて、人間としての生き方について考えを深めること。

- 物事を多面的・多角的に考えている様子
- 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めている様子

ウ 個人内評価の見取り例



3 求められている道徳科授業の具体例と改善例

(1) 求められている道徳科の授業

ア 多面的・多角的に考える授業

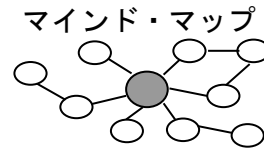
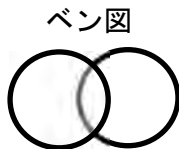
小学校における道徳教育を経て中学校段階に至っている生徒たちは、道徳的価値の理解はある程度できていると考えてよい。例えば、「いじめはよくない」、「きまりを守ることは大切」などの理解である。

道徳的価値が関係している事象について、主体的に判断し、人間としてよりよい生き方（道徳的実践）ができるような内面的資質（道徳性）を育成する必要がある。もちろん、「きまりを守ることは大切だ」という価値理解は必要だが、そうした望ましいと分かっていることをなぞるだけでは深まらない。人間には、きまりを守ることは大切だと分かっているでもそれを実現することがなかなかできない弱さもある。また、道徳的価値の捉え方も様々であり、置かれた状況によっても捉え方が変わることもある。生きて働く道徳性を育成するためには、道徳的価値や道徳的価値に関わる事象について一面的ではなく、多面的・多角的に考える授業が求められる。

【多面的・多角的に考えるためのアプローチ】

- 異なる行為がもたらす結果の面から考える。
- 登場人物を含め、様々な立場の視点から考える。
- 心の葛藤や揺れ、人間の弱さに着目して考える。
- 社会的な視点から行為を考える。
- 道徳的価値そのものを問い、その本質を考える。 など

なお、多面的・多角的に考える際、思考ツール（ベン図、マトリックス、マインドマップ等）やホワイトボードなどを活用することも有効である。ただし、ツール等の活用自体が目的化しないように注意する必要がある。



イ 自分との関わりで考える授業

登場人物への自我関与とは、主人公の道徳上の問題を自分の問題として捉え、主人公の立場になって考えることである。その際、主人公の心情に共感するとともに、判断し、行動を選択していく。心情の読み取りに終始することは避けなければならない。

多くの道徳教材には、主人公が人間としての生き方に気づき、生き方を変えていく姿が描かれている。導入場面においては、生徒に問いをもたせ、問題意識をもって授業に臨ませることで、道徳的価値の主体的自覚へとつながっていく。また、登場人物に共感しながら道徳的価値を追求していく場面では、登場人物の体験を自分の体験として捉えさせ、自分がどうあるべきかを考えさせるとよい。

【自分との関わりで考えるためのアプローチ】

- 問題意識をもたせる。
- 読み物教材を活用する際に、登場人物に自分を投影させる。
- 「なぜ」「どうして」と考えや行為を支える理由を問う。
- あなたはどう考えるか、あなたならどうするかと直接的に問う。 など

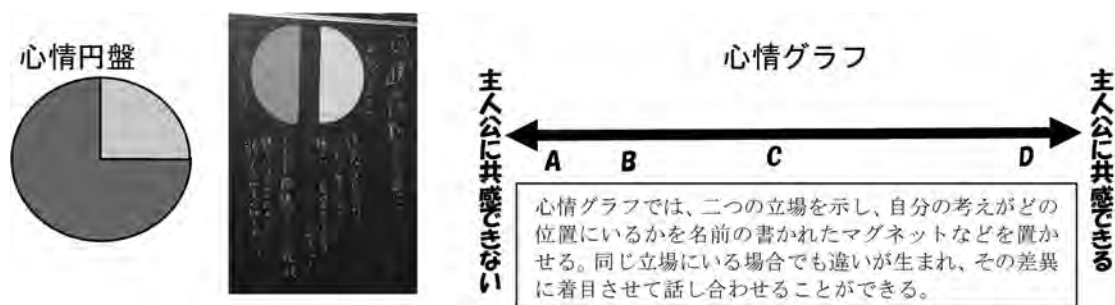
生き方を追求していく場面においては、どのような考えから生き方が変わったのかについて、多面的・多角的に捉え、深く考えられるように発問を構成し、教師と生徒が共に考えられるように、工夫していくことが大切である。そのためには、教師が授業のねらいをしっかりと押さえ、考えさせたい道徳的価値を明確にしておくことが大切である。また、学習指導過程に問題解決的な学習や、道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れて道徳科の授業を実施することも有効である。

ウ 共に考え、語り合う授業

「考え、議論する道徳」を具現化するためには、生徒が自分の考えを出すのみでなく、お互いの考えを交流し、多様な視点からの考えに接しながら、自分の考えを深めていくような授業を展開する。話し合いの形態については、固定化したり、形式化したりすることなく、生徒の実態や教材の特質に応じて、ペアや小グループでの話し合いや討論形式など効果を考慮し変えていくようにする。その際には、コの字型や、班ごと、同じ考えの人同士でまとまって座るなど、座席の配置も工夫するとよい。

【共に考え、語り合う授業のためのアプローチ】

- 単なる考えの発表ではなく、「話し合い」になるようにする。
- 生徒同士で話し合いがしやすいような座席配置の工夫をする。
- 考えを書く活動については、取り入れる場面を吟味し効果的に取り入れる。 など



また、書く活動は、考えを深めたり、整理したりする上で効果的な活動であり、場面をよく吟味し取り入れていくことが大切である。なお、話し合いを充実させることが道徳科の目標ではない。「生徒が考えをたくさん発表してくれたから授業が成功した」のではなく「活発な話し合いを通して、道徳的価値に対する生徒の考えを深めることができた」と言える授業を目指す。

エ 計画的・発展的に実施する授業

道徳科では、道徳教育の全体計画に基づき、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動との関連を考慮しながら、計画的・発展的な指導を行うために年間指導計画を作成するものとされている。（※P 261 参照）

生徒の実態を把握している教師が、道徳科の指導について創意工夫することは大切なことである。生徒の道徳性を養う観点から、より大きな効果を期待できる場合に、計画に変更や修正を加えることもあるが、その場合、以下の点に十分留意する必要がある。

【計画的・発展的に実施する授業のためのアプローチ】

- 安易に内容項目を入れ変えないようにする。
- 安易に教材変更をしないようにする。
- 体験的な活動のみの授業とならないようにする。
- 学級で起きた問題や学校行事のための事前学習とならないようにする。

計画的・発展的に授業を実施していくためには、まず自校における重点目標を踏まえ、複数回授業で取り扱う内容項目は何にするべきか、年間指導計画を作成する段階で十分に検討する必要がある。その上で、教科書の教材と学習指導要領に示されている内容項目の関係をよく確認する必要がある。計画時に、教科書の教材ではなく郷土教材等を選択する場合、指導内容に不足は生じないか、元々の教材よりも大きな効果が期待できるかなどについて、学年内で検討することはもちろん、校長や道徳教育推進教師にも報告し、慎重に検討する必要がある。特に、年度途中で内容項目や教材を変更する際は、学校の願い等が反映されている計画を崩しかねないため、より慎重にならなくてはならない。また、計画を変更する場合には、理由等を備考欄等に記入し、次年度の検討課題として引き継いでいくことも必要である。

(2) 具体例と改善に向けたポイント

ア 多面的・多角的に考える授業

主題名 規則はなぜあるのか 内容項目 【C 遵法精神、公德心】

ねらい 規則は何のためにあるのか様々な面から考えることを通して、法やきまりを守り、お互いが気持ちよく過ごせる社会をつくろうとする態度を育てる。

教材名 「二通の手紙」(私たちの道徳)

① 望ましいと分かっていることを確認する授業

T 元さんのとった行動は本当にそれでよかったのでしょうか。

S 1 よくなかった。

T 何がよくなかったのでしょうか。

S 1 規則を破って入園させたから二人が迷子になった。

S 2 自分だけの判断で勝手に入園させた。

S 3 元さんがそれでよかったと思っているのだからいいのではないか。

T 自分さえよければいいのですか。でも、元さんは会社をやめることになりましたよ。

S 1 規則としてきまっているのだから自分勝手はよくない。

S 2 みんながみんな好き勝手にしたら大変なことになる。

S 3 やはり規則は守らないといけないなと思った。

～中略～

T 規則を守ることは大切なんですね。これからどうしていきたいですか。

S きまりを守って生活していきたい。

▲「法やきまりは守るべきもの」ということを確認するような傾向が見られる。

このような授業の結果



「規則を守ることは大切だ」といった分かり切った価値観の確認で終わってしまう授業となる。また、場面ごとに主人公の気持ちを聞いていくのみの授業も同様の結果となりやすい。またその場合、「入れてあげたい」という元さんの気持ちへの共感が強まるあまり、ねらいとする価値が「思いやり、親切」という別な価値へ流れてしまうこともある。遵法というねらいとする価値を念頭に置きながら、多面的・多角的な思考を促す指導の工夫が必要となる。

② 授業改善に向けたポイント

(a) 行為の帰結を考える

対立する行為を比べ、それぞれの行為を選択したことによって起こり得る結果の面から考えさせる。姉弟を入園させたことによるプラス面とマイナス面、入園させなかったことによるプラス面とマイナス面の4つの面などが考えられる。

(b) 様々な立場から考える

主人公の立場からだけでなく、様々な立場から考えさせる。主人公の元さん以外に、姉弟、母親、同僚、上司、更には、佐々木、山田、他の客なども考えられる。

(c) 社会的な視点から考える(心の葛藤や揺れを含めて)

それぞれの行為を選択する人が多数いた場合に、社会はどうなるのかという広い視野から考えさせる。複数の道徳的価値が対立することに伴う心の葛藤や揺れも大切に取り扱いながら、入園させること、または入園させないことがもたらす社会的な影響について考えさせる。

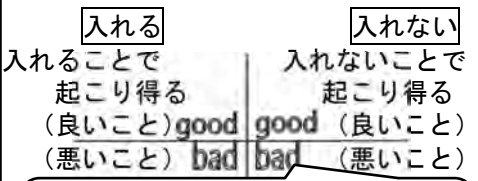
(d) 価値の本質を問い、深い学びへとつなげる

遵法とは、無批判にそれに従うべきというものではない。適正な手続きを経て法やきまりをよりよく変えることも含め、その在り方について考える本質的な問いも大切である。

※ 多面的・多角的に考える上で、思考ツール(ベン図、マトリックス、マインドマップ等)やホワイトボードなどを活用することも有効である。ただし、ツール等の活用自体が目的化しないように注意する必要がある。

③ 改善した具体例

(a) 行為の帰結を考える

学習活動・主な発問等	留意点
T それぞれの行為を選ぶことによって起こり得ることを考えてみましょう。 S1 子供は喜ぶ。(+) } S2 お母さんは感謝する。(+) } 入れる S3 何かあったら責任が取れない。(-) } S4 事故を防ぐことはできる。(+) } S5 子供はがっかりする。(-) } 入れない S6 姉の行為が無駄になる。(-) }	・行為の結果について予測し、元さんはどうすべきかを更に考えるようにする。(座標軸使用例) 

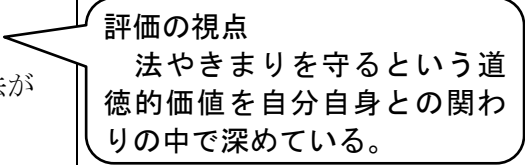
(b) 様々な立場から考える

学習活動・主な発問等	留意点
T いろいろな立場で考えてみましょう。(役割の取得) どのような立場が考えられますか。また、それぞれの思いはどのようなものでしょうか。 S1 姉弟 ・うれしい・ありがとう。 S2 母親 ・ありがたい・感謝している・無事でよかった。 S3 同僚 ・何かあったらどうするつもりなのか。 ・勝手なことをするとみんなに迷惑がかかる。 S4 上司 ・勝手な判断をすれば会社の秩序が保たれなくなる。 ・何かあったら責任問題になる。	・元さんの行為について多面的・多角的に考えられるようにする。 ・母親の立場では、感謝だけでなく、もし無事に帰ってこなかったら感謝の手紙はどうなっていたかについても考えさせる。 ・同僚は、元さんの気持ちや行為に共感はできるが、それだけではないことを押さえる。

(c) 社会的な視点から考える (心の葛藤や揺れを含む)

学習活動・主な発問等	留意点
T 元さんの行為は、社会的に考えたらどうなのでしょう。 S1 みんながきまりを破ったら社会は混乱する。 S2 思いやりを大切にするのも社会的には大切だよ。 S3 この場合、どちらを優先させるべきなのだろう…。 T 会社は何故元さんを懲戒処分にしたのでしょうか。 S3 事故が起きていたかもしれないから。 ↓ T 元さんは何故動物園を退職したのでしょうか。	・行為が社会にもたらす影響に目を向け、更に深く考えられるようにする。 ・関連する価値や、新たな疑問を考えることで、深い学びへ繋がるようにする。 ・気持ちを聞くのではなく、行為を支えた思いを考える。

(d) 価値の本質を問い、深い学びへとつなげる

学習活動・主な発問等	留意点
T 規則は守らなくてはいけないのでしょうか。 S1 守らないといけないと思う。 T 江戸時代の掟に「外では女性と話をしてはいけない」という内容のものがありませんか。このことをどう思いますか。 S2 昔はそういう考えがあったのか。今ではあり得ない。 S3 きまりは時代によって変わるということだね。 T 自転車の事故が多いことから平成26年に道路交通法が変わって取り締まりが厳しくなりましたね。 S4 そのきまり自体がどうなのかを考えることも大切なんだ。	・「法やきまりを守ることは大切だ」と分かり切った答えにならないように発問を工夫する。 

④ 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・元さんの行為について多様に話し合う中で、自分の考えを発表したり、友達の考えを聞いたりしている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・規則は何のためにあるのかについて、自分との関わりで理解を深めている。

イ 自分との関わりで考える授業

主題名 家族を愛する心 内容項目 【C家族愛、家庭生活の充実】

ねらい 一冊のノートを読み、おばあちゃんの気持ちを多様に考える学習を通して、家族の大切さに改めて気づき、敬愛の念を深め、家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築こうとする実践意欲を高める。

教材名 「一冊のノート」(私たちの道徳)

① 登場人物の心情理解に重きを置いた授業

T 外でおばあちゃんを見かけて、知らん顔をして通り過ぎた時のぼくはどのような気持ちだったでしょうか。

S 1 自分の祖母だと知られたくない。恥ずかしい。

S 2 こんな祖母ではなかった。変な格好しない。

T 父の話聞いた時、何も言えなくなったぼくはどのような気持ちだったのでしょうか。

S 3 でも困っているのはぼくたちの方なんだ。

S 4 もうどうしていいのかわからないよ。

T ぼくは黙って祖母と草取りを始めたけれど、心の中ではどのようなことを語っていたのでしょうか。

S 5 おばあちゃん、ごめん。今までありがとう。

S 6 おばあちゃん、これからは大切に作るね。

～中略～

T 最後に「一冊のノート」を通して感じたことを考えて書いて発表しましょう。

S 7 主人公がおばあちゃんに優しくできるようになってよかったですと思います。

S 8 おばあちゃんの気持ちが主人公に届いてよかったですと思いました。

▲いきなり教材の内容に入っているため生徒に問題意識がない。

▲最初から最後まで主人公の気持ちのみを聞く授業になっている。

このような授業の結果



主人公のおばあちゃんへの気持ちを理解するだけの授業となる。「家族の一員としての自覚をもって充実した家庭生活を築いていく意欲を高める」というねらいに迫るためには、「家族の大切さ」に改めて気付かせることが重要である。そのために、登場人物に自我関与しながら(心情理解含む)も、自分のこととして捉え、考えさせる工夫が求められる。

② 授業改善に向けたポイント

(a) 生徒が問題意識をもって授業に臨めるような導入を工夫する【問題意識の喚起】

教材と出会う前の授業の導入段階で、生徒に問いをもたせ、問題意識をもって授業に臨ませることで、ねらいとする道徳的価値について自分との関わりで考える学習が可能となる。

(b) 発問を吟味し、議論の場を設ける【道徳的価値の自覚を深める】

授業のねらいに迫る発問を中心発問としたり、導入と関わらせた振り返りの発問をしたりと、発問を十分吟味する。また、議論する場について、その目的を明確化し、議論後は、生徒自身の振り返りにつなげていくことが大切である。

(c) 生徒が道徳的価値や生き方を考えられるような場面を設ける【生き方を追求させる】

読み物教材に登場する人物についてだけでなく、多様な考え方に目を向け、様々な感じ方や考え方を知り、生徒が道徳的価値や自分の生き方についての考えを深める場面を工夫して取り入れる。

(d) 登場人物に自我関与させるための工夫をする【共感させる】

登場人物の立場や心情を通して考える際には、自我関与することが重要である。登場人物の体験を自分の体験として捉えさせることを大切に、自分がどうあるべきかを考えさせる。

③ 改善した具体例

(a) 生徒が問題意識をもって授業に臨めるような導入を工夫する【問題意識の喚起】

学習活動 主な発問等	留意点
<p>T みんなにとって家族ってどんな存在？今日はまず、先日実施した家族についての事前アンケートについて聞こうと思います。家族がいてよかったと思った経験を教えてください。</p> <p>S 1 一緒にご飯を食べる時や、困った時に助けてもらえることです。</p> <p>T 逆にイライラしたことなんかはないですか？</p> <p>S 2 勉強しろとしつこく言われたり、怒られたりするときには嫌だなあと感じます。</p> <p>T なるほど。家族にはいいところもあれば、嫌なところもあるんだね。今日はそんな「家族」について改めて考えてみよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前にアンケートを実施し、家族について自分のこととして考えさせる。 ・導入場面で生徒に問題意識をもたせて授業に臨ませる。

(b) 発問を吟味し、議論の場を設ける【道徳的価値の自覚を深める】

学習活動 主な発問等	留意点
<p>T 黙って祖母と草取りを始めた僕について、どう思いますか。</p> <p>S 1 謝れなくても心の中できっと謝っていて、その気持ちがきっと伝わったと思います。</p> <p>S 2 私はいくら行動に表してもやっぱり言葉にして謝るべきだったと思います。</p> <p>T 僕の行動について「賛成」と「反対」意見が出ているけど、他のみんなはどうかな？</p> <p>S 3 僕は反対で、今まで傷つけることを言ってしまった分、同じように言葉で謝った方が、きっとおばあちゃんもうれしいと思います。</p> <p>S 4 反対の気持ちもわかるけど、家族だからこそ、きっと心の中でもつながっていて主人公の気持ちは伝わったと思います。</p> <p>T もし、S 5くんが主人公の立場だったらどうしたかな？</p> <p>S 5 素直に言えるかは分からないけど、行動でも言葉でも何でも気持ちを伝えたい。</p> <p>T きっとその思いは家族に伝わるね。様々な意見が出たけど、みんなの家族への気持ちがすごく伝わってきました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・僕の行動について考えさせる。それによって、議論する場が生まれる。 ・多様な考え方に目を向け、様々な感じ方や考え方を知ることができるようにする。 <p>評価の視点 友達の考えを聞きながら自分の考えを伝え、話し合っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が道徳的価値や自分の生き方について考える場面を工夫して取り入れる。

(c) 生徒が道徳的価値や生き方を考えられるような場面を設ける【生き方を追求させる】

学習活動 主な発問等	留意点
<p>T 今日の授業に関して、あなた自身が「家族」について考えたことを書いてみよう。</p> <p>S 1 自分も主人公のように家族にイライラしてしまうことはあるけど、家族はいつも自分のことを大切に考えて言ってくれているのかなと改めて感じました。</p> <p>S 2 普段からいて当たり前存在だからあまり考えたことはなかったけど、いつも側にいてくれる家族をこれからもっと大切にしていきたいと感じました。</p> <p>【教師の説話】 生徒の心に響く説話。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・心情理解から離れ、家族を敬愛することについて、自分のこととして捉え、振り返ることができるようにする。 ・家族に関する教師の説話で余韻を残して終える。 <p>評価の視点 これまでの自分を振り返りながら家族への思いを深めている。</p>

④ 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

・家族愛についての考え方は多様であることを認め合いながら自分の考えを伝え、話し合っている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

・かけがえのない存在である家族について、自分と重ね合わせながら考えている。

ウ 共に考え、語り合う授業

主題名 誠実に考えて行動する 【A自主、自律、自由と責任】

ねらい 自律的に判断することについて、主人公の取った行動を基に考えることを通して、誠実について理解を深め、自己の利益にとらわれることなく、誠実に行動しようとする態度を高める。

教材名 「ネット将棋」(私たちの道徳)

① ワークシートに書いては発表を繰り返す授業

T 徹底的に時間稼ぎをしている時の僕の気持ちを考えてワークシートに記入して下さい。

(時間を決めてワークシートに記入させる。)

T それでは、書いたことを発表してくれる人はいますか。

S 1 負けを認めたくない。

T 同じような意見はありますか。

S 2 敏和に負けたらかっこ悪いからいやだ。

(同様に数人の生徒に発言を求める。)

T 次の場面について考えます。なぜ僕はネット将棋でいきなりログアウトするのを繰り返すのでしょうか。ワークシートに記入をしてください。

(時間を決めて記入させ、発言を求める。)

T それでは、書いたことを発表してくれる人はいますか。

S 3 ネット将棋がおもしろくないから。ゲームをリセットするのと同じ感覚かな。

T 他の意見はありますか。

S 4 顔も分からないから、相手のことは気にならない。

▲ワークシートに記入して発表を繰り返すのみで考えや思いを語り合う場面がない。

▲書く活動には時間を要するため、本当に考えさせたい発問で十分に時間を確保できない。

このような授業の結果



意見の発表だけになり、道徳的価値について話し合いながら考えを深めていくことは難しい授業となる。また、時間配分についても、本当に考えさせたい発問に時間を割くことができず、ねらいに迫る授業展開ではなくなってしまうこともある。話し合いの時間を十分に確保し、自分と他者の考えを比較しながら考えを深めさせる機会を設けることが大切である。

② 授業改善に向けたポイント

(a) 生徒たち同士で話し合いがしやすいように座席の配置を工夫する

効果的な話し合いが行われるように、教材に合わせて討論形式やペア、グループでの話し合いなど話し合いの形態を考え、座席の配置を工夫する。「考え、議論する道徳」を具現化するため、発問は、生徒の考えや意見が偏ることが予想される発問ではなく、多様な考えや意見が出る発問となるように配慮する。

(b) 考えの発表ではなく、「話し合い」になるように配慮する

座席の配置を工夫しても自分が考えたことを互いに言い合うだけの授業では、話し合いをしているとは言えない。自分が他の人の考えや意見に共感できる部分や、相違点に着目し「話し合い」ができるようになることが重要である。例えば、心情円盤や心情グラフを使って、自分の考えや気持ちを可視化し、互いに比べ合いながら議論させていくなどの工夫も考えられる。

(c) 自分の考えを書く活動を吟味する

書く活動は、生徒が自分の考えを深めたり、整理したりする機会として有効な活動であるため、取り入れる際には十分な時間が確保できるように配慮する。なお、全ての発問に対して意見を書かせる時間を取ると、本時の中心として考えさせたい発問で時間を確保できなくなる。したがって書く活動を取り入れる場面については吟味が必要である。

※ 書くことが有効な場面→生徒に自分の考えを深めさせたいとき、生徒の考えがまとまらず整理させたいとき、生徒にとって発表しづらい内容だと思ふときなどがある。

③ 改善した具体例

(a) 生徒同士で話合いがしやすいように座席の配置を工夫する

学習活動・主な発問等	留意点
<p>T 一手一手に考え込んでいるふりをして、時間切れに持ち込もうとしている僕はどんなことを考えていると思いますか。グループで話し合しましょう。 (小グループ内で自分の考えを伝えながら話し合う。)</p> <p>S 1 『僕』は負けを認めたくないんだよ。時間切れになれば負けたことにはならないから、時間切れを狙っていると思うな。</p> <p>S 2 やっぱり、敏和に負けたらかっこ悪いからいやだよな。 (時間を決めて話合いを止め、全体で考えを共有する。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒同士で話合いができるようにするため、生徒が顔を合わせられる工夫があるとよい。 ・教材に合わせて討論形式にしたり、同じ考えの生徒で集まったり、机をつけて座ったりするなど工夫する。

(b) 単に考えを発表するだけでなく、「話合い」にする

学習活動・主な発問等	留意点
<p>T 対局が面白くないと、いきなりログアウトを繰り返します。みなさんはそんな行動をとる僕をどう思いますか。</p> <p>S 1 何だか分かる気もするな。</p> <p>S 2 わたしはどうしてそんなことをするのか分からない。</p> <p>T 「分かる」というのと「分からない」というのがあるようですね。心情円盤で表してみましょう。 (理解できる…青 理解できない…赤 で示す。)</p> <p>T では、その理由を含めてグループで話し合ってください。</p> <p>S 3 『僕』の行為はダメだと思うので、赤が多いです。『僕』のやっていることは相手に対して失礼だから。</p> <p>S 4 私もそう思う。だから僕は将棋がうまくならないんだよ。</p> <p>S 5 でも、負けたって言うのが悔しいからネット将棋なんじゃない。だから私は青が少し入っているかな。</p> <p>S 3 なるほどね…。確かに負けを認めるのは嫌だな。 (時間を決めて話合いを止め、全体で考えを共有する。)</p> <p>T 話し合ったことを教えてください。</p> <p>S 6 いくらネット上でも『僕』のやったことは失礼だと思う。</p> <p>T 同じような心情円盤になっているS 7くんはどうか。</p> <p>S 7 私も同じように考えました。</p> <p>T 少し青が入っているS 5さんの意見も聞いてみたいな。</p> <p>S 5 私は少しだけ『僕』の気持ちが分かって、そもそも『僕』は負けましたって言うのが嫌だからネット将棋を選んだんと思う。やっぱり負けを認めるのは嫌だもん。</p>	<p>評価の視点 話合いの中で、他者の考えも聞き入れながら参加している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心情円盤を活用することで考えを可視化し、自分と他の人の考えで同じところや違うところに着目させる。 ・机間指導しながら、出ている考えを確認しておく。全体で話し合う時に少数意見を意図的に取り上げることで、本音が引き出されることがある。 ・客観的に見れば『僕』の行動の不誠実さは分かるが、自分の負けを認めるのは悔しく、嫌なものである。その本音を生徒に語らせた上で、それでも誠実であることの価値を考えさせたい。

(c) 意見を書く活動を吟味する

学習活動・主な発問等	留意点
<p>T 今日『僕』の行動について話し合いながら、誠実に考えて行動するというを考えてきました。このことについて自分の考えを書いてみてください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りの部分では、生徒が自分の考えを深めるために書く活動を取り入れるのも有効。書く時間を十分に確保する。

評価の視点
自分自身との関わりで誠実に考えて行動することの価値理解を深めている。

④ 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

・自分の考えだけでなく、他の生徒の考えも聞きながら、誠実であることの価値について考えている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

・誠実に考えて行動することの大切さについての理解を、自分を見つめながら深めている。

エ 計画的・発展的に実施する授業

道徳科では、道徳教育の全体計画に基づき、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動との関連を考慮しながら、計画的・発展的な指導を行うために年間指導計画を作成するものとされている。(※P261参照)

もちろん、生徒の実態を把握している教師が、道徳科の指導について創意工夫することは大切なことである。その一環として、計画に変更や修正を加える際には、以下のような授業にならないよう十分留意する必要がある。

① 安易に内容項目を変更する(思い付き)授業

学期	月	週	内容項目
1	4	2	Cよりよい学校生活、集団生活の充実
		3	A節度、節制
		4	C遵法精神、公德心
	5	1	B思いやり、感謝
		2	D生命の尊さ ⇒ B友情・信頼
		3	C家族愛、家庭生活の充実
		:	

部活動特集(テレビ)

↓ 大会も近い

「B友情、信頼」に変更

↓

楽しい授業ができそう



各学校ならではの願い、道徳主任の思い、他教科との関連等が考慮され、計画的・発展的に行われるように作成されたもの。

《改善に向けたポイント》

「生命の尊さ」が年間に一度しか計画されていない場合、内容項目を不用意に変更することで、「生命の尊さ」を全く扱わずに当該学年が終わってしまう事態が生じる危険性があるため、年間を通じて配当された各内容項目の時数に留意する必要がある。

また、上記の計画からは、5月第1週の「思いやり・感謝」と第3週の「家族愛、家庭生活の充実」とのつながりを踏まえて、第2週に「生命の尊さ」を配列した意図がうかがえる。実施時期を入れ替える際にも、前後の授業との関係にも目を配る必要がある。

② 同じ内容項目で安易に教材を変更する授業

例：【D生命の尊さ】

予定されていた教材

闘病生活を続ける主人公が、病床で読んだ1冊の本を通して、生命は祖先からつながり、未来へつながるものであることを強く感じ、自らの病に立ち向かっていく姿が描かれた読み物教材。

変更しようとしている教材

動物の殺処分を取り上げたニュース動画で、年間に殺処分をされている動物の種類や数、殺処分となる理由などが映像として紹介されている。

《改善に向けたポイント》

内容項目において押さえるべき指導内容は一つではない。学習指導要領解説には、「生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重すること。」と書かれている。予定されていた教材は、生命の連続性の捉えから、有限である生命が、かけがえのない大切なものであると気付かせることをねらいとしている。それに対し、変更しようとしている教材は、動物の殺処分というインパクトのある動画教材ではあるが、かけがえのない生命という視点のみとなっている。

小学校段階からの内容項目の発展性や特質を踏まえて教材を吟味することが大切である。

(※中学校学習指導要領解説 第3章 第2節 内容項目の指導の観点 参照)

③ 単に活動を行って終わる授業（例：スキルトレーニング）

	学習活動	改善に向けたポイント
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・チェックカードで自己診断する。 ・自分のタイプを確認する。 	<p>△<u>本時の主題</u>に関わる問題意識をもたせる導入であるか。</p> <p>→本時の主題は何か？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのような道徳性を育みたいか。 ・教師の願いがあるか。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・スキルトレーニングについて説明する。 ・パターン①についての対応を考える。 ・ペアになり、実演する。 ・発表する。 ・パターン②についての対応を考える。 ・ペアになり、実演する。 ・発表する。 	<p>△トレーニングをすることが目的になっていないか。</p> <p>→道徳科の目標は、あくまでも道徳性を養うこと。</p> <p>△「楽しかった」や「こうしたらうまくいった」等の感想や事実の確認だけで終わっていないか。</p> <p>→その時の実感を大切に、感じたことや気付いたことを基にして、心の動きなどについて考えさせたい。</p> <p>→ペアで学習をしたことで対話的な学びができたとは限らない。</p> <p>→主題に対して、道徳性に係るであろう思いや意見の交わし合いができたか。</p>
終末	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りを記入し、発表する。 ・教師の話を聞く。 	<p>△エンカウンターを行っただけになっていないか。</p>

ねらいと生徒の実態に即して、指導方法は多様に工夫されるものであり、スキルトレーニングを取り入れること自体が否定されるものではない。しかし、道徳科の特質は、内面的資質である道徳性（道徳的判断力、心情、実践意欲及び態度）を育成することである。体験活動をして終わることのないよう、また、行為の仕方を学ぶだけになることのないよう留意する。

④ 学級経営のための授業

	学習活動	改善に向けたポイント
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスの課題や行事に向けて等の事前アンケートの結果を確認する。 	<p>△自分事として考えることと、クラスの問題点を話し合うことを混同させていないか。</p> <p>→ねらいとする道徳的価値を含む道徳的事象について問題意識をもたせることが大切となる。</p>
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・体育祭で優勝するためには、何が必要かグループで話し合う。 ・話し合ったことをクラス全体で共有する。 ・今後の意識や心構えについて話し合う。等 	<p>△体育祭に向けて、クラスの団結意識を高めることが目的になった授業になっていないか。</p> <p>△学級経営という面でも、道徳は効果を発揮するが、クラスの問題点や行事に向けての心構えだけを話し合う時間ではない。</p> <p>→道徳性を高めていくことをねらい、生徒たちのよりよい生き方を問う時間である。</p>
終末	<ul style="list-style-type: none"> ・目標を立てる。 ・教師の話を聞く。 	<p>△優勝するために、自分にできることは何かだけを考えさせる。</p> <p>→特定の行為等を望む指導のようなものではない。</p>

学級の実態を踏まえた指導は必要であるが、学級で起きている問題を直接解決したり、行事のためにクラスの団結意識を高めたりするための道徳科とならないようにする。本時では、友情の真の尊さを理解することを通して、苦しみ悩みながらも互いに励まし合い、高め合える人間関係を深めていこうとする態度を養うために、道徳的価値を含む教材を活用して考え、議論する道徳授業とする。

第2 教科等指導と道徳科

1 各教科等における道徳教育

学校における道徳教育は、道徳科を要として学校の教育活動全体を通して行われる。各教科等の指導においても、それぞれの教科等の目標と内容の特質を踏まえ、固有の指導を充実させる過程で道徳性を育む。

教師の用いる言葉や生徒への接し方、授業に臨む姿勢や熱意といった教師の態度や言動による感化とともに、次の二つの視点で道徳性を養う。

(1) 各教科等の目標、内容及び教材と道徳教育との関わり

各教科等の目標や内容には、生徒の道徳性の育成に関係の深い事柄が直接・間接的に含まれている。(参照「中学校学習指導要領解説 総則編」P133) それぞれの道徳教育に関わる側面を明確にし、各教科等に含まれている道徳的価値を意識して指導することで、道徳科での学習と相互に関わって道徳性を養うことが期待される。

各教科等	学習活動例（各教科等に含まれる道徳的価値）
数学科	・方程式の解き方を考える活動（「真理の探究、創造」）
理科	・自然の事物、現象を調べる活動（「生命の尊さ」「感動、畏敬の念」）
美術科	・鑑賞（「相互理解、寛容」「向上心、個性の伸長」） ・自然物のスケッチ（「自然愛護」）
保健体育科	・チームワークを重視した学習（「友情、信頼」「よりよい学校生活、集団生活の充実」） ・健康、安全についての学習（「節度、節制」）
技術・家庭科	・パソコン操作（「勤労」） ・住まいと住み方（「家族愛、家庭生活の充実」）
外国語科	・外国語によるコミュニケーション（国際理解、国際

道徳科との関わりを、年間指導計画【P263～265参照】や別葉【P270参照】で示すとよい。

表にない教科等の具体的事例についてはP256～260を参照

(2) 学習活動や学習態度への配慮

生徒が学習に興味・関心をもち、主体的に取り組む工夫をしたり、相互に学び合う思いやりのある協力的な雰囲気や人間関係を作るよう配慮したりすることで、望ましい道徳性を養うことが期待される。

事例1 数学 【隣同士で説明し合う場面】 B 相互理解、寛容

T : お互いの考えを伝え合うときに、どのようなことに気を付けますか。

S1 : 相手に分かりやすいように簡単な言葉で話すことです。

S2 : 自分の考えとどこが違うのか比べながら聞くことです。

T : そのとおりですね。相手に分かるように話すことで、自分の考えが整理されるし、
お互いの考えを聞くことで更に自分の考えも深まりますよね。

道徳性を養うための教師の発言

事例2 理科 【実験を準備する場面】 C よりよい学校生活、集団生活の充実

T : 準備を始めます。みんなで協力して実験を成功させましょう。

S : 自分一人でやるほうが楽だと思うのですが。

T : 一人でやるよりみんなで役割を分担した方が、すばやく準備ができます。一人一人
が自分のできることを探して、協力して活動しましょう。

道徳性を養うための教師の発言

2 各教科等と道徳科の指導の具体例

(1) 国語科と道徳科

ア 国語科における道徳教育

中学校学習指導要領解説総則編 P133 各教科等における指導の基本方針 から

国語を正確に理解したり適切に表現したりする資質・能力を育成する上で、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高めることは、学校の教育活動全体で道徳教育を進めていくための基盤となるものである。また、思考力や想像力を養うこと及び言語感覚を豊かにすることは、道徳的心情や道徳的判断力を養う基本になる。さらに、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養うことは、伝統と文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛することなどにつながるものである。

教材選定の観点として、道徳性の育成に資する項目を国語科の特質に応じて示している。

イ 国語科の授業での展開例

単元名 いにしえの心と語らう 教材名 おくのほそ道（3学年）

ねらい 歴史的背景などを考えながら、作者のものの見方や感じ方を読み取る。

展開例【単元のまとめの場面】

T : 作者の松尾芭蕉は平泉で、かつてこの地で栄えた藤原氏や義経のことを思って俳句を詠みました。皆さんも、修学旅行で印象に残った史跡や名所はありますか。

S1 : 奈良の大仏は、写真で見るより大きくて迫力がありません。奈良時代にできたとは思えないほどでした。

S2 : 金閣寺もすごくきれいでした。あの金色を昔の人も見たのでしょうか。

T : 同じ金色ではないかもしれませんが、輝きはすごかったですよね。昔の人も、同じように感じたかもしれませんね。このような歴史的遺産は、これからも大切に
して残し、伝えていきたいですね。

道徳的心情の育成の視点
(道徳の内容項目 C「我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度」)

道徳科との関わり

教材名 「日本人として」(彩の国の道徳) 内容項目 C 我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度

ねらい 母国のことを嬉しそうに語る姿や誇りに思う姿から、日本の伝統や文化のよさについて考える学習を通して、日本人としての自覚をもって新しい文化の創造と社会の発展に努めようとする態度を育てる。

単元名 相手や目的に応じた書き方 教材名 お礼の手紙を書く（2学年）

ねらい 伝えたい内容を明確にし、相手や目的に応じた手紙を書く。

展開例【単元の導入の場面】

T : 職場体験で、お世話になった事業所の方に手紙を出そうと思います。手紙を書くときに、気を付ける点は何でしょうか。

S1 : 言葉遣いは丁寧にしたほうがいいと思います。友達と同じはよくないと思います。

S2 : 以前学習した、敬語を使うといいと思います。

S3 : 感謝の気持ちを込めて、丁寧に書くことも大切だと思います。

T : いいところに気が付きましたね。形式も大切ですが、相手の気持ちを考え、感謝の気持ちを込めて手紙を書いてみましょう。

道徳的実践意欲と態度の育成の視点
(道徳の内容項目 B「思いやり、感謝」)

道徳科との関わり

教材名 「忘れていたこと」(彩の国の道徳) 内容項目 B 思いやり、感謝

ねらい 友人の一言で、主人公が考え、気付いたことについて話し合う学習を通して、周りの人々の善意や支えに感謝しようとする態度を育てる。

(2) 社会科と道徳科

中学校学習指導要領解説総則編 P133 各教科等における指導の基本方針 から

ア 社会科における道徳教育

多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情は、伝統と文化を尊重し、それらを育ててきた我が国と郷土を愛することなどにつながるものである。また、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深め、自由・権利と責任・義務との関係を広い視野から正しく認識し、権利・義務の主体者として公正に判断しようとする力など、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成することは、道徳教育の要としての「道徳科」の第2のCの〔社会参画、公共の精神〕に示された「社会参画の意識と社会連帯の自覚を高め、公共の精神をもってよりよい社会生活の実現に努めること」などと密接な関わりをもつものである。

イ 社会科の授業での展開例

単元名 明治維新 学習内容 殖産興業（2学年）

ねらい 近代的な産業発展のための明治政府の政策を理解し、知識を身に付ける。

展開例【単元の導入の場面】

- T : 渋沢栄一が目指したのはどのような日本だと思いますか。
- S 1 : 経済力をつけて人々を豊かにしようとしたのではないのでしょうか。
- S 2 : 欧米に負けないような国にしたかったのかもしれませんが。
- T : 社会全体のことを考え、貢献しようとした先人たちがいたから今の日本があります。これからはみなさんの力でよりよい社会を築いていきましょう。

道徳的心情の育成の視点
(道徳の内容項目 C「社会参画、公共の精神」)

道徳科との関わり

教材名 「豊かな日本を目指して-日本近代経済社会の父・渋沢栄一-」(彩の国の道徳) 内容項目 C 社会参画、公共の精神

ねらい 「みんなの幸せ」のために日本を豊かにしようと働いた渋沢栄一の生き方について考える活動を通して、自分たちの力で本当の豊かな社会を築いていこうとする心情を育てる。

単元名 日本の諸地域 学習内容 環境問題や環境保全から見た九州地方（2学年）

ねらい 水俣市をめぐる環境問題や環境保全への取組を通じて産業の発達と持続可能な社会の両立について考える。

展開例【単元のまとめの場面】

- T : 水俣市が環境モデル都市に選定されるほど環境が改善された理由は何だったのでしょうか。
- S : 水俣市の住民が、環境をよくしようと様々な工夫をしたからだと思います。
- T : そうですね。住民たちが自分のまちの環境を改善するために、話し合いを重ねながら活動をしてきました。私たちが自分の地域の環境のためにできることを考えていきましょう。

道徳的実践意欲と態度の育成の視点
(道徳の内容項目 D「自然愛護」)

道徳科との関わり

教材名 「旧芝川の再生を願って」(彩の国の道徳) 内容項目 D 自然愛護

ねらい 自然を大切にすることの意義を語り合う活動を通して、自然を可能な限り維持・保存しようとする意識を高め、自然保護に貢献しようとする態度を育てる。

道徳教育

(3) 音楽科と道徳科

ア 音楽科における道徳教育

中学校学習指導要領解説総編 P133 各教科等における指導の基本方針 から

音楽を愛好する心情や音楽に対する感性は、美しいものや崇高なものを尊重することにつながるものである。また、音楽による豊かな情操は、道徳性の基盤を養うものである。

なお、音楽科で取り扱う共通教材は、我が国の自然や四季の美しさを感じ取れるもの、我が国の文化や日本語のもつ美しさを味わえるものなどを含んでおり、道徳的心情の育成に資するものである。

イ 音楽科の授業での展開例

題材名 情景を思い浮かべながら、思いを込めて歌おう 教材名 赤とんぼ (歌唱・1学年)

ねらい 歌詞の内容や曲想を感じ取り、表現を工夫して歌う。

展開例【題材の導入の場面】

- T : 赤とんぼの歌詞には「負われて見たのは」とあります。これは「背負われて」という意味ですが、いつ、誰に背負われていたのだと思いますか。
- S1 : 背負われるのだから、子供の時にお母さんに背負われていると思います。
- S2 : でも、「姐や」とあるから、お姉さんが背負っていたのではないのでしょうか。
- T : いいところに気が付きましたね。この曲は、作詞者の三木露風の幼少期の実体験に基づいたものです。幼い頃に自分を残して実家に帰された母親が、いつか必ず迎えに来てくれることを信じて、子守娘である姐やと過ごした様子が描かれています。この「赤とんぼ」では、作詞者の家族への思いをよく考えて、その思いを表現するように歌ってみましょう。

道徳的実践意欲と態度の育成の視点
(道徳の内容項目 C「家族愛、家庭生活の充実」)

道徳科との関わり

教材名 「何だっぴいんだあ」(彩の国の道徳) 内容項目 C 家族愛、家庭生活の充実
ねらい 無関心を装いながらも進路選択を迎える姉を温かく見守る父に対する主人公の気持ちについて話し合う活動を通して、家族の在り方や家族を思いやる態度を育てる。

題材名 日本の伝統芸能に親しもう 教材名 平調 越天楽 (鑑賞・3学年)

ねらい 各楽器の音色や旋律の特徴を感じ取り鑑賞する。

展開例【題材のまとめの場面】

- T : 今回雅楽の学習をして学んだこと振り返ってみましょう。
- S1 : 越天楽の旋律は小学校の時に習った「越天楽今様」でも聴いたことがあって、私たちもよく知っている旋律でした。
- T : そうですね。雅楽は日本独自の芸能でしたか。
- S2 : いえ、中国や朝鮮半島などから伝来した歌や舞を起源としていたと思います。
- T : そうですね。雅楽はアジア各地から伝来した歌や舞を起源としながらも、日本の音楽として根付き伝統芸能となりました。皆さんもどこかで聴いたことがありますね。今回の学習を生かしこれからも日本の伝統文化を大切にしていきたいですね。

道徳的心情の育成の視点
(道徳の内容項目 C「我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度」)

道徳科との関わり

教材名 「日本人として」(彩の国の道徳) 内容項目 C 我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度
ねらい 日本人としての自覚を深めていく主人公について考える学習を通して、日本人としての生き方や伝統・文化を大切にする心情を育む。

(4) 総合的な学習の時間と道徳科

中学校学習指導要領解説総則編 P133 各教科等における指導の基本方針 から

ア 総合的な学習の時間における道徳教育

総合的な学習の時間においては、目標を「探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成する」とし、育成を目指す資質・能力の三つの柱を示している。

総合的な学習の時間の内容は、各学校で定めるものであるが、目標を実現するにふさわしい探究課題については、例えば、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題、地域や学校の特色に応じた課題、生徒の興味・関心に基づく課題、職業や自己の将来に関する課題などを踏まえて設定することが考えられる。生徒が、横断的・総合的な学習を探究的な見方・考え方を働かせて行うことを通して、このような現代社会の課題などに取り組み、人間としての自己の生き方を考えることにつながっていくことになる。

(以下略)

イ 総合的な学習の時間の展開例

単元名 共に生きる ～誰もが安心して暮らせるために～ (第2学年・70時間)

ねらい 障害のある方や外国の方等との関わりを通して、福祉・国際理解を学習課題として自分たちにできることとは何かを考えさせる。

年間指導計画例

月	学習内容・学習活動	教師の支援・指導上の留意点
5	○車椅子の疑似体験を通して、障害を知る。	・車椅子やアイマスク等の疑似体験グッズを使い、障害のある方の努力や苦勞を理解させる。 【B 思いやり、感謝】
7	○外国人講師を招いて、日本に暮らす外国人の暮らしを知る。	・日本で生活する外国の方の思いを受け止め、自分たちと異なる文化を理解させる。 【C 国際理解、国際貢献】
10	○これまでの学習を通して、自分の学習課題を設定する。	・ねらい、内容を確認し、それぞれ主体的に学習課題を捉え追究させる。【A 真理の探究、創造】
2	○学習発表会でそれぞれの発表を聞き、考えたことをまとめる。	・自分の考えを伝えるとともに、いろいろな見方や考え方があることを知る。【B 相互理解、寛容】

年間指導計画等に道徳科との関わりを意識した支援の視点を明記する。

道徳科との関わり

総合的な学習の時間における道徳教育と、道徳科の内容との関連を捉え、総合的な学習の時間における様々な体験活動が効果的に生かされるよう、道徳科の年間指導計画等において創意工夫を図る。

【例】○「母の誘い」(彩の国の道徳)【B 思いやり、感謝】

→5月の車椅子疑似体験の授業の後に実施し、車椅子疑似体験で学んだことも想起させながら、思いやりの大切さを改めて考えさせる。

○「私の人生を変えたエチオピア」(彩の国の道徳)【C 国際理解、国際貢献】

→7月の外国人講師を招く授業の前に実施し、国を超えて助け合うことの大切さを学ぶ主人公の生き方を通して、他国の人々を尊重する心について考えさせる。

道徳教育

(5) 特別活動と道徳科

ア 特別活動における道徳教育

中学校学習指導要領解説総則編 P133 各教科等における指導の基本方針 から

特別活動における学級や学校生活における集団活動や体験的な活動は、日常生活における道徳的な実践の指導を行う重要な機会と場であり、特別活動が道徳教育に果たす役割は大きい。特別活動の目標には、「集団活動に自主的、実践的に取り組み」、「互いのよさや可能性を発揮」、「集団や自己の生活上の課題を解決」など、道徳教育でもねらいとする内容が含まれている。また、目指す資質・能力には、「多様な他者との協働」、「人間関係」、「人間としての生き方」、「自己実現」など、道徳教育がねらいとする内容と共通している面が多く含まれており、道徳教育において果たすべき役割は極めて大きい。(以下略)

イ 特別活動の授業での展開例

題材名 大縄跳びを成功させよう (学級活動)

ねらい 互いのよさを認め、支え合いながら協力して実践する態度を育む。

展開例【題材の導入の場面】

- T : 体育祭の大縄跳びを成功させるためには、クラスとして何が必要でしょうか。
- S 1 : 目標回数を決めて、それを達成するために全員で息を合わせて練習することです。
- S 2 : 自分が失敗して回数が跳べないと、周りに迷惑をかけそうで嫌だな…。
- S 3 : 回数を跳ぶことだけが、成功なのかな。
- S 4 : 苦手な人も楽しく跳べるように声をかけたり、コツを教えたり、お互いに励ますことが、一番必要だと思います。
- T : そうですね。回数を跳ぶこと以上に、お互いの調子を気遣ったり、励まし合ったりしながら、目標達成に向けて努力することが大切ですね。

道徳的実践意欲と態度の育成の視点
(道徳の内容項目 B「相互理解、寛容」)

道徳科との関わり

教材名 「心のパス交換」(学級づくりの羅針盤) 内容項目 B 相互理解、寛容

ねらい 異なる個性を見つけたとき、違いを認めるためにはどのような行動や態度をとればよいのかを考える学習を通して、それぞれの差異を認め尊重し合う態度を育てる。

題材名 避難訓練 (学校行事)

ねらい 防災に対する意識の高揚を図り、安全に気を配る態度を養う。

展開例【題材のまとめの場面】

- T : 東日本大震災は日中(昼間)起こりました。あの時のように、地域に大人が少ない状況で、みなさんが地域や家庭で果たせる役割には、どんなことがあるでしょうか。
- S 1 : 小さな子供や、高齢者の方の避難を手伝うことです。
- S 2 : 小学生と一緒に、下校したり避難したりすることもできると思います。
- S 3 : 地震は突然起きるから、いざというときに動けるように、事前の準備や、話し合っておくことが必要だと思います。
- T : そうですね。とっさの判断が、命を守ることにつながるので、日頃の訓練が大切ですね。自分の命だけでなく、周りの人の命も大切にしたいですね。

道徳的実践意欲と態度の育成の視点
(道徳の内容項目 D「生命の尊さ」)

道徳科との関わり

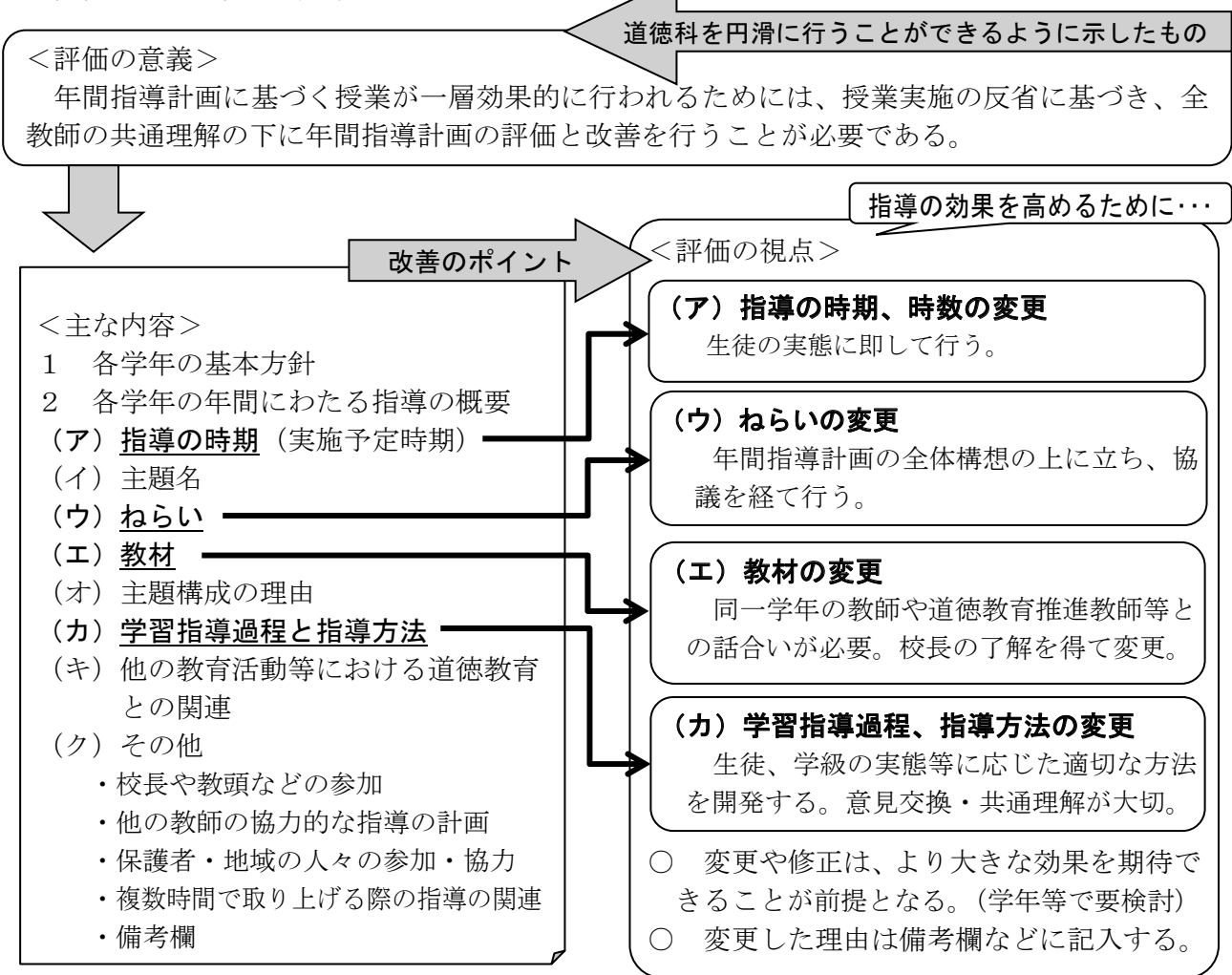
教材名 「語り継がれる教訓」(心の絆) 内容項目 D 生命の尊さ

ねらい 自分や周りの人々の命を守るために、災害時にどのように行動すべきかを話し合う活動を通して、自他の生命を大切に生きていこうとする心情を育てる。

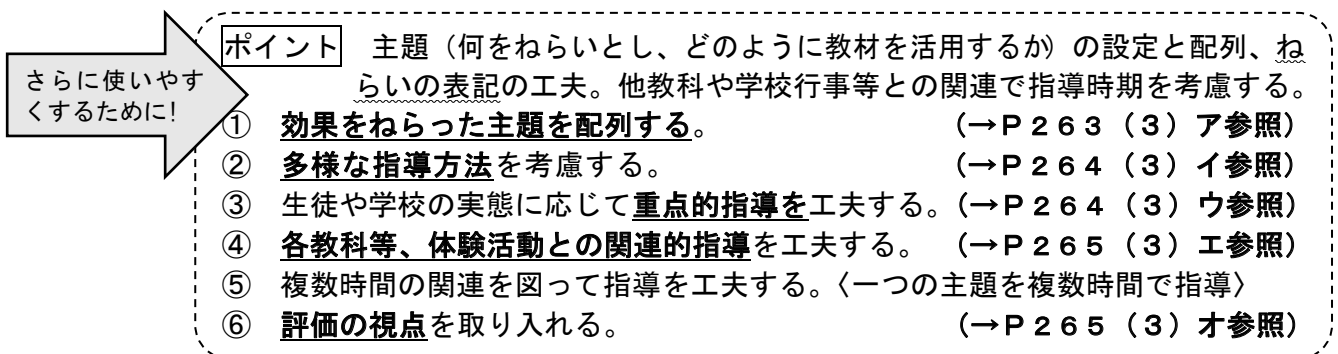
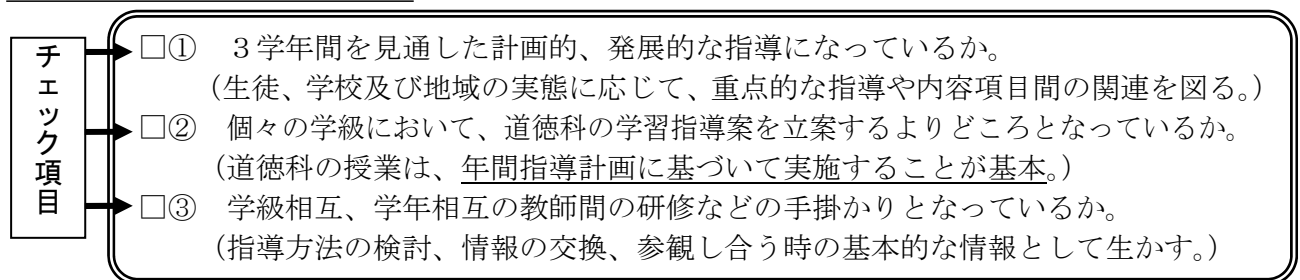
第3 年間指導計画の作成と評価、改善

1 年間指導計画作成と評価、改善のポイント

「年間指導計画」は、「道徳科の指導」が、道徳教育の全体計画に基づき、各教科等の年間指導計画との関連をもちながら、生徒の発達の段階に即して計画的・発展的に行われるように組織された全学年にわたる年間の指導計画である。



2 作成にあたっての配慮事項



3 具体例

(1) 配当時数一覧表の例

道徳科において、各内容項目を何時間扱うのか、学校の道徳教育の重点目標や学年の実態にも応じた重点内容を設定し、時数を配当した一覧表で示す。

＜教材について＞…主たる教材は「教科書」であるが、有益・適切な補助教材は併せて使用することができる。道徳科では多面的・多角的な視点から人間の生き方や在り方に関わる内容を学ぶため、地域教材等の多様な教材を効果的に使用することも考えられる。(付録「特別の教科 道徳」における彩の国の道徳の活用について)(P 279)を参照のこと。)また、著作権についての注意も必要である。

「道徳科においても、主たる教材として教科用図書を使用しなければならないことは言うまでもないが、道徳教育の特性に鑑みれば、各地域に根ざした地域教材など、多様な教材を併せて活用することが重要である。」(中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 P103)

視点	内容項目	中1	中2	中3	合計
する 分 自 主	自主、自律、自由と責任	3	2	2	7
	節度、節制	2	1	1	4
	礼儀	1	1	3	5
	友 相	2	3	2	7
る わ り に 関 す る こ と	思いやり、感謝	3	3	3	9
	礼儀	1	1	1	3
	友 相	2	2	2	6
	友 相	2	3	2	7
に 関 す る こ と	や 社 会 と の 関 わ り	1	2	1	4
	や 社 会 と の 関 わ り	1	1	1	3
	や 社 会 と の 関 わ り	3	2	1	6
	や 社 会 と の 関 わ り	1	1	1	3
	や 社 会 と の 関 わ り	1	1	1	3
	や 社 会 と の 関 わ り	1	1	1	3
関 す る こ と	命 や 自 然 崇 高 な も の と の 関 わ り	2	2	2	6
	命 や 自 然 崇 高 な も の と の 関 わ り	1	1	1	3
	命 や 自 然 崇 高 な も の と の 関 わ り	1	1	1	3
	命 や 自 然 崇 高 な も の と の 関 わ り	2	1	3	6

学校の道徳教育の重点内容項目を「A自主、自律、自由と責任」「B思いやり、感謝」「D生命の尊さ」に設定する。

学校の道徳教育の重点内容項目の他に、第1学年の重点内容項目を「A節度、節制」に設定する。

(2) 主題配列一覧表の例 (第3学年)

主題配列一覧表は年間指導計画の目次であり、年間を見通す際に活用することができる。

期	月	週	主題名	内容項目	教材名＜出典＞	備考
1 学 期	4 月	2	仲間とともに	Cよりよい学校生活、集団生活の充実	一針一針 <埼玉県道徳教育教材資料集(郷土篇)>	改善した方がよいと思われる事項について記述する。 ・時期や時数 ・ねらい ・教材 ・学習指導過程や指導方法など
		3	日々の生活から	A節度、節制	父の一言 <彩の国の道徳>	
		4	望ましい社会参画	C社会参画、公共の精神	次は清掃登山に挑戦だ <彩の国の道徳>	
3 学 期	3 月	1	命の重さ	D生命の尊さ	命のタフキ	次年度の年間指導計画作成の参考にする。
		2	国を越えて	C国際理解、国際貢献	海と空 <私たちの道徳>	

(3) 年間指導計画の例

<ねらいについて>…ねらいは、この時間に何を中心に考えさせ、どのような道徳的諸価値に迫り、どのような資質・能力を育成するのが明確になるように具体的に記述する。

※例【A】を通して、【B】しようとする【C】を育てる（高める、養う）。

【A】…教材のどこをどう活用し、何を中心に学習させるのか。（学習活動）

【B】…内容項目から具体的にどのような道徳的価値を取り上げるのか。（道徳的価値との関わり）

【C】…道徳性の諸様相から、どのような資質・能力を育むのか。（道徳性の諸様相）

（例）「帰郷」[B思いやり、感謝]のねらいの示し方

故郷のぬくもりや、家族や自分を支えてくれている人々の温かさについて考える学習を通して、多くの人の善意や支えにより今の自分があることに気づき、それに感謝し応えようとする態度を養う。

ア オリエンテーションやまとめを位置付けた年間指導計画

4 月 1 週	主題名	1年後の自分へ	内容項目	A向上心、個性の伸長 他
	ねらい	自分のよさや課題を見つめる学習を通して、高い目標や希望をもつことが充実した学校生活の実現につながることを理解し、成長しようとする態度を養う。		
	教材名	今の私 中一の自分	出典	私たちの道徳
	主題構成の理由	道徳科への関心を高めるとともに、今の自分を見つめ、この1年間の目標をもたせた上で、学習を始めさせたい。		
	学習指導過程	<ol style="list-style-type: none"> 1 教材「今の私 中一の自分」を記入し、自己を見つめる。 2 グループに分かれ、「今の私 中一の自分」を発表する。 3 学級で「今の私 中一の自分」の話合いを通して、道徳科の授業のルールを学ぶ。登場人物の考えや行いに対する自分の考えをもつ→自分の考えを発表する→友達のと自分の考えを比べる→話合いで自分の考えを広げる→自分のよりよい生き方を見つける。 4 「1年後の自分へ」という、今年度の目標を書いた掲示物を作成する。 5 教師の説話で、道徳科の授業における教師の願いを伝える。 6 3年間を通して使用する道徳ファイルを配布する。 		
	他の教育活動との関連	学習規律の徹底、学級活動		
	備考	道徳ファイルは、A～Dの4つの視点に仕分けられるものを用意し、授業で使用するワークシート等を保管する。		
	授業後の改善点			

オリエンテーションで、安心して話し合える学級の雰囲気をつくる。

3 月 2 週	主題名	1年前の自分から	内容項目	A向上心、個性の伸長 他
	ねらい	1年間の学習記録を振り返ることを通して、自分の1年間の道徳性の成長に気づき、次年度に向けてさらに成長していこうとする意欲を高める。		
	教材名	今の私（巣立ちのとき）	出典	私たちの道徳
	主題構成の理由	授業で活用したワークシートや掲示物を振り返ることで、自己の学習状況や道徳性に係る成長の様子に気付かせたい。		
	学習指導過程	<ol style="list-style-type: none"> 1 教材「今の私 巣立ちのとき」を記入し、自己を見つめる。 2 オリエンテーションで記入した「今の私 中一の自分」や「1年後の自分へ」の掲示物、道徳ファイルに保管したワークシートを振り返り、1年間の授業を通して自分が成長したと思うことをまとめる。 3 グループに分かれ、道徳科の授業を通して成長したと思うことについて話し合う。 4 全体での話合いを通して、1年間の成長を共有する。 5 教師の説話を聞き、年度当初に設定した目標と今の自分を照らし合わせ、これからの自分の生き方を見つめる。 		
	他の教育活動との関連	学習規律の徹底、学級活動		
	備考	道徳ファイルに保管したワークシートの記録を、次年度の年間指導計画の見直しの際の評価資料とする。		
	授業後の改善点	記録を継続的にとることで、生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を評価することができる。		

道徳教育

イ 多様な学習指導過程に着目した年間指導計画

5 月 1 週	主題名	自分で正しい判断ができる人に	内容項目	A 自主、自律、自由と責任
	ねらい	周囲に流されて行動する私について多面的・多角的に考える学習を通して、他人の言動に左右されることなく自主的に善悪の判断をすることの大切さに気付く、誠実に行動してその結果に責任をもとうとする態度を育てる。		
	教材名	私たちの初詣	出典	彩の国の道徳「学級づくりの羅針盤」
	主題構成の理由	中学生の時期は周囲の言動に左右され、それがいじめへと発展することがある。この時期に何が正しくて何が誤っているのかを自ら判断し、望ましい行動がとれるようにする意義は大きい。		
	学習指導過程	<p><ア 自我関与を意識した学習の場合></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 周りの意見に流された経験について話し合う。 2 教材「私たちの初詣」の範読を聞き、話し合う。 (1) 「メールを返してこない優子が悪い」と携帯電話を置いたときの私の気持ち。 (2) 私はなぜ真希の携帯をとっさに取り上げたのか。 (3) 真希に思い切って電話をかけたときの私の思い。 (4) 「ありがとう」と優子に言われた時の私の思い。 3 私たちの道徳「考え、判断し、実行し、責任をもつこと」に自分の考えを記入し、発表する。 	<p><イ 問題解決的な学習を取り入れた場合></p> <ol style="list-style-type: none"> 1 他人の言動に左右されている自分はいないか話し合う。 2 教材の範読を聞き、問題だと思われる内容についてペアやグループで話し合う。 (1) 主人公の問題点はどんなことだろうか。 (2) なぜ、そのように考えるか。 (3) よりよい問題解決のために大切なことは何か。 3 今日の学習で学んだことを記入し、学習したことを今後どのように生かせるか考える。 	
	他の教育活動との関連	技術科「情報モラルとコンピュータの利用」、学級活動		
	備考	私たちの道徳「考え、判断し、実行し、責任をもつこと」		
	授業後の改善点	課題を自分との関わりの中で考え、自分自身のような改善点があるか考えることができた。		

生徒や学級の実態に応じて、より大きな効果が期待できる学習を取り入れる。

ウ 重点内容項目について意図的に配列した年間指導計画

7 月 1 週	主題名	私から社会をよりよいものへ	内容項目	C 社会参画、公共の精神
	ねらい	冒険家であるにも関わらず清掃登山活動に率先して取り組む主人公の生き方を考える学習を通して、よりよい社会を築くためには進んで社会と関わることの必要性に気付く、社会の一員として積極的に社会参画していこうとする態度を育てる。		
	教材名	次は清掃登山に挑戦だ	出典	彩の国の道徳「自分をみつめて」
	主題構成の理由	よりよい社会を実現するためには、主人公が率先して環境美化活動に取り組んでいるように、積極的な社会参画が必要であることを認識させたい。		
	学習指導過程	<ol style="list-style-type: none"> 1 公共のマナーについて、学校や生活の中で感じたことや体験したことを発表する。 2 教材「次は清掃登山に挑戦だ」の範読を聞き、話し合う。 (1) 「自分のことのように恥ずかしくなってきた」野口さんの思い。 (2) 「もうやるしかないぞ。」と覚悟を決めた野口さんの思い。 (3) 「人間には『したいこと』と『しなければならないこと』がある。自分はどんな生き方をしていこうと考えたか、ワークシートに記入した考えを発表する。 	<p>重点内容項目【C社会参画、公共の精神】を意図的・計画的に取り扱い、学習をより効果的にする。</p>	
	他の教育活動との関連	社会科「世界の様々な地域」、ボランティア活動、委員会活動、学級活動		
備考	私たちの道徳「つながりを持ち住みよい社会に」			
授業後の改善点	本時と次週のワークシートから、生徒の道徳性に係る成長の様子を把握する。			
7 月 2 週	主題名	望ましい社会へ	内容項目	C 社会参画、公共の精神
	ねらい	困難に直面してもあきらめずに行動する主人公の生き方について考える学習を通して、自分たちにできることを真剣に考え、社会の一員としてよりよい社会の実現に向けて努力することの大切さを理解し、どのような行動を取るべきか主体的に考えようとする態度を養う。		
	教材名	鳩が飛び立つ日―石井筆子―	出典	私たちの道徳
主題構成の理由	理想とする社会の実現に向けて努力することについて、自身の生徒や支援者と連帯し行動した主人公の生き方を通して、その意義を考えさせたい。			

エ 体験活動との関連を示した年間指導計画

6 月 1 週	主題名	この世に生まれた喜びー命のつながりー	内容項目	D 生命の尊さ
	ねらい	役割演技を通して、母や智子の思いを考え、生命の有限性やかけがえのなさを理解し、この世に誕生したことを喜び、自他の生命を尊重しようとする態度を育てる。		
	教材名	命のタスキ	出典	彩の国の道徳「自分を見つめて」
	主題構成の理由	人は生命の有限性を理解し、自他の生命の尊さに気付くことでよりよく生きようとする態度につながる。思春期のこの時期に、親から授かったかけがえのない命に対する感謝と喜びを改めて感じる意義は大きい。		
	学習指導過程	<ol style="list-style-type: none"> 1 バトンについてのイメージをもつ。 2 教材の条件・状況を確認し、「命のタスキ」を範読し、主人公の「智子」の気持ちや母親の思いを話し合う。 <p>(1) 母親に対して「好きであなたの娘に産まれてきたわけじゃない。」と言った場面の役割演技を行い、母親に対する智子の気持ちについて考える。</p> <p>役割演技の設定</p> <p>母親役：智子に対して携帯電話の使い方や門限について注意する。 智子役：母親に対して反抗する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (2) 母の生い立ちを聞いた智子の気持ちを考える。 (3) 鏡に映る自分の姿を見ている時の智子の思いを考える。 3 教師の説話を聞き、「生命の尊さ」について考える。 		
	他の教育活動との関連	<p>家庭科「保育実習」</p> <p>相手の立場を配慮した考えをもつことで、望ましい人との接し方を学ぶ活動。</p>		
授業後の改善点	事前に保護者と連携することで、より効果的な学習ができるのではないか。			

実際に幼稚園の園児に接する体験を通して、親の立場や考え方に触れ、自分の考えを深める。

オ 生徒の評価について欄を設けた年間指導計画

11 月 1 週	主題名	世界の平和と人類の幸福のために	内容項目	C 国際理解 国際貢献
	ねらい	主人公を自分に重ねる学習を通して、主人公の思いに触れることで地球上に住む同じ人間として、他国の人々を尊重し、世界の平和と人類の幸福のために貢献しようとする態度を育てる。		
	教材名	私の人生を変えたエチオピア	出典	彩の国の道徳「自分を見つめて」
	主題構成の理由	日本人としてだけでなく、世界で生きる一人としてどうあるべきか考えさせることで国際社会を生きる上で大切な人類愛について考えをもたせる。		
	学習指導過程	<p style="text-align: center;">学 習 活 動</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 難民の子供の写真を提示する。 2 教材の条件・状況を確認し、「私の人生を変えたエチオピア」を範読し、主人公のアグネス・チャンの気持ちを中心に話し合う。 <p>(1) 子供たちが走ってきたとき、主人公はどのような気持ちだったか。</p> <p>(2) キャンプ地に到着したとき、主人公は何を感じ、何を考えたか。</p> <p>(3) 子供たちと触れ合ったとき、主人公はどのような思いをもったか。</p> <p>3 教師の説話を聞き、世界に生きる一員としての人類愛について考える。</p>	<p style="text-align: center;">評 価 の 視 点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 難民の写真から受ける印象について考え、自分の意見を素直に発表している。【発言】 ・ 現実と理想の間で葛藤する主人公を自分に重ねる学習を通して、人類愛について考えている。【話し合い、発言】 ・ 本時で考えたことをもとに国際社会に生きる我々はどうすべきか考え、国際理解、国際貢献について自らの行動を見つめ直している。【道徳ワークシート・発言】 	
	他の教育活動との関連	国語科「挨拶」 社会科「持続可能な社会のために」		
備考	私たちの道徳「日本人としての自覚をもち世界に貢献する」			
授業後の改善点	現代の社会情勢などについて触れることで、より現実的な問題として考えさせ、道徳的価値を高めることができた。			

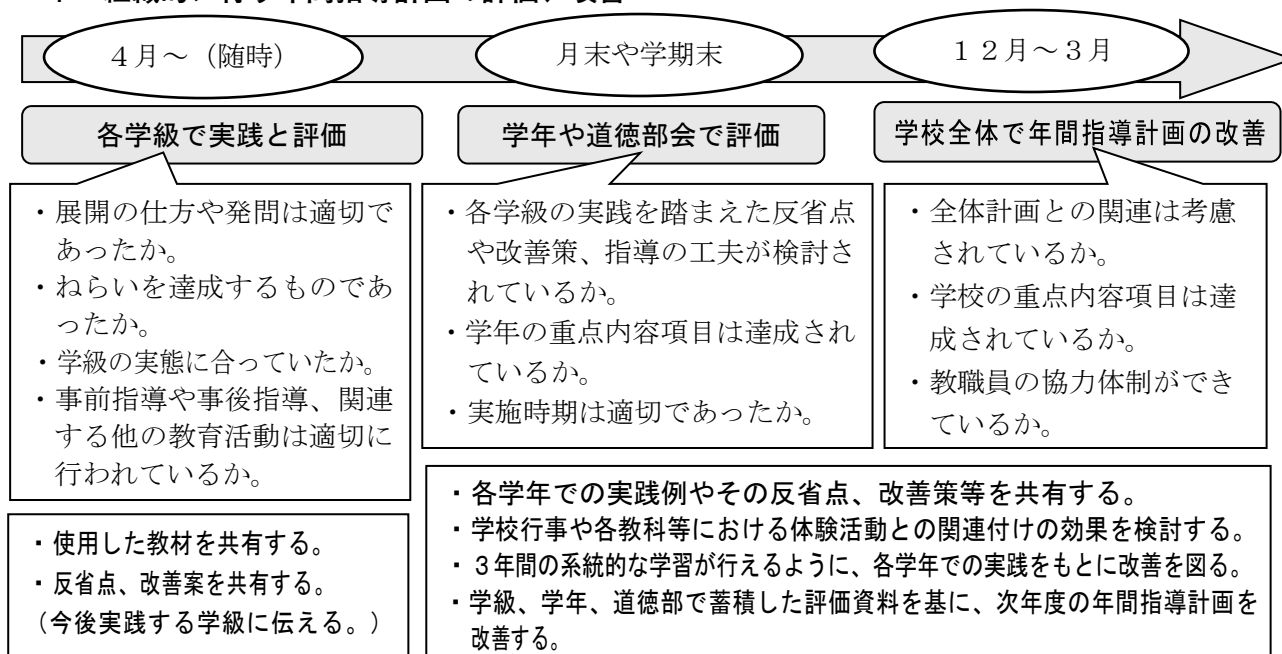
(4) 評価と改善

年間指導計画に基づく授業が一層効果的に行われるためには、授業実施の反省に基づき全教師の共通理解の下に、年間指導計画の評価と改善を計画的に行うことが必要である。そのために、日常から実施上の課題を評価欄に記入したり、検討したりするための資料を収集しておく。

ア 年間指導計画の評価、改善の概要

月	4	毎月（月末）	3
内容	○年間指導計画の確認及び共通理解	○今月の指導計画の振り返りと翌月の内容の確認	○本年度の反省 ○次年度の年間指導計画の作成
評価の実際	<ul style="list-style-type: none"> 各学年の基本方針と指導の概要を確認する。 指導時期、主題名、ねらい、教材、主題構成の理由、展開の大要及び指導の方法、他の教育活動との関連、管理職や他の教師、保護者・地域の方との連携 等 	<ul style="list-style-type: none"> 年間指導計画の備考欄に実施上の課題を記入する。 学年会等で課題を共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> 次年度に向けて改善策を策定する。全体計画と併せて見直しを行う。

イ 組織的に行う年間指導計画の評価、改善



ウ 年間指導計画の評価、改善のためのチェックシート例

評価の視点	評価	備考（改善内容）
全体計画との関連が十分考慮されている。	○	
学校、学年の重点内容項目の指導について工夫され、具体的に計画されている。	×	重点内容項目の指導時期に偏りがあるので、各学期に計画したい。
生徒の実態を踏まえた3年間の系統的な計画になっている。	○	
計画の中に多様な体験活動の工夫が見られる。	○	
「ねらい」「教材」「展開の大要」などが適切である。	○	
校長、教頭、他の教師との協力的な指導が計画されている。	○	
保護者や地域の人々の参加や協力について具体的に計画されている。	×	授業参観として実施する道徳科との連携を図りたい。

（評価） ○：よい ×：要改善

第4 全体計画の作成と評価、改善

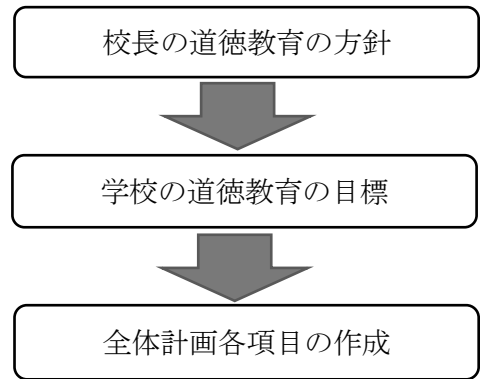
1 全体計画作成と評価、改善のポイント

(1) 全体計画とは→【具体例P269】

道徳教育は、学校の教育活動全体で取り組むものである。

全体計画は、学校における道徳教育の基本方針を示しながら、学校の教育活動全体を通して、道徳教育の目標を達成するための方策を、総合的に示した教育計画である。

道徳教育の基本方針を中心として、重点や各教育活動との関連、家庭や地域社会との連携について総合的に示す必要がある。



(2) 全体計画に具備しなければならない要件→【P269参照】

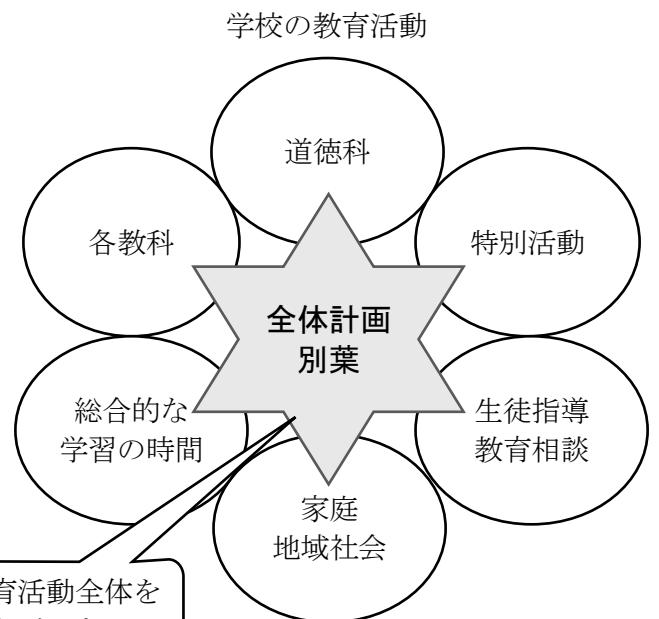
- ① 教育関係法規、時代や社会の要請や課題（いじめへの対応）、教育行政の重点施策
- ② 学校や地域の実態と課題、教職員や保護者の願い
- ③ 生徒の実態や発達段階等
- ④ 学校の教育目標、校長の道徳教育の方針、道徳教育の重点目標、各学年の重点目標
- ⑤ 道徳科の指導方針
- ⑥ 各教科、総合的な学習の時間及び特別活動などにおける道徳教育の指導の方針、内容及び時期
- ⑦ 特色ある教育活動や豊かな体験活動における指導との関連
- ⑧ 学級、学校の間関係、環境の整備や生活全般における指導の方針
- ⑨ 家庭、地域社会、関係機関、小学校・高等学校・特別支援学校等との連携の方針
- ⑩ 道徳教育の推進体制

(3) 全体計画 - 別葉 - とは→【具体例P270】

道徳教育推進教師を中心とした指導体制に基づいて、学校の全教育活動で道徳教育を推進するために、全体計画の別葉を作成する。

全体計画別葉には、

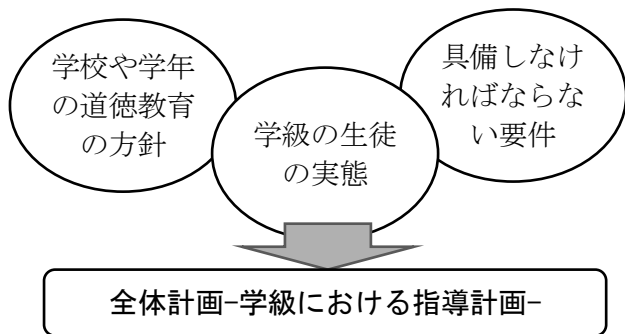
- ① 各教科等における道徳教育に関わる指導の内容及び時期を整理したもの
- ② 道徳教育に関わる体験活動や実践活動の時期等が一覧できるもの
- ③ 道徳教育の推進体制や家庭や地域社会等との連携のための活動等が分かるものなどが考えられる。



全体計画別葉を作成することで、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育をより効果的に行うことができる。

(4) 全体計画 - 学級における指導計画 - とは

全体計画を学級の実態に応じて具現化し、学級において教師や生徒の個性を生かした道徳教育を展開するための指針となるものである。
学級担任は、学校や学年の道徳教育の方針を受け、創意工夫しながら作成する必要がある。



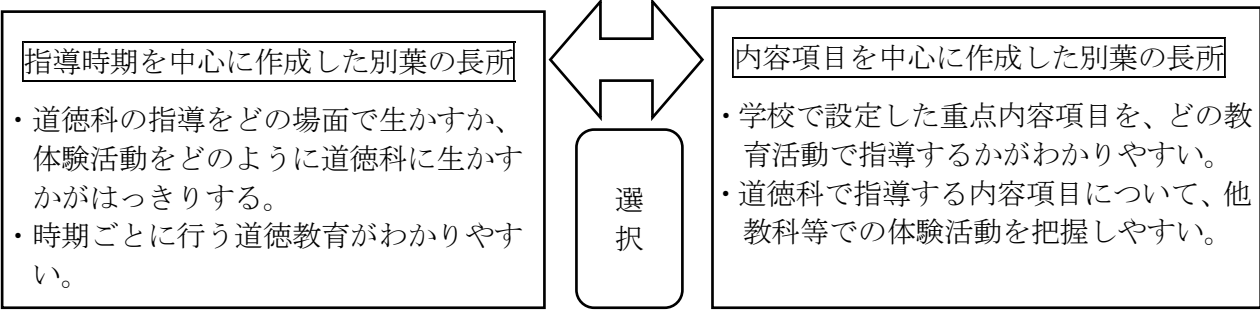
2 作成に当たっての配慮事項

(1) 全体計画（一覧表）の工夫、配慮事項→【P269参照】

- ① 校長の明確な方針の下に道徳教育推進教師を中心として全教師の協力・指導体制を整える。
- ② 道徳教育や道徳科の特質を理解し、教師の意識の高揚を図る。
- ③ 各学校の特色を生かして重点的な道徳教育が展開できるようにする。
- ④ 学校の教育活動全体を通じた道徳教育の相互の関連性を明確にする。
- ⑤ 家庭や地域社会、学校間交流、関係諸機関などとの連携に努める。
- ⑥ 計画の実施及び評価・改善のための体制を確立する。

(2) 全体計画（別葉）の工夫、配慮事項→【P270参照】

- ① 全体計画の別葉には、指導時期を中心として作成する方法と内容項目を中心として作成する方法とがあるが、それぞれの特徴と長所を考え、学校の実態に合ったものを作成する。
- ② 全教師が道徳教育の方針やそれぞれの役割を理解した上で、組織的で一貫した指導に当たる必要があるため、教科主任や各学年などに呼びかけ、全教師の参画によって作成する。



3 全体計画に基づく指導における評価

全体計画に評価欄を作成することで、生徒の道徳性の成長を見取ったり、次年度への改善につなげたりすることができる。

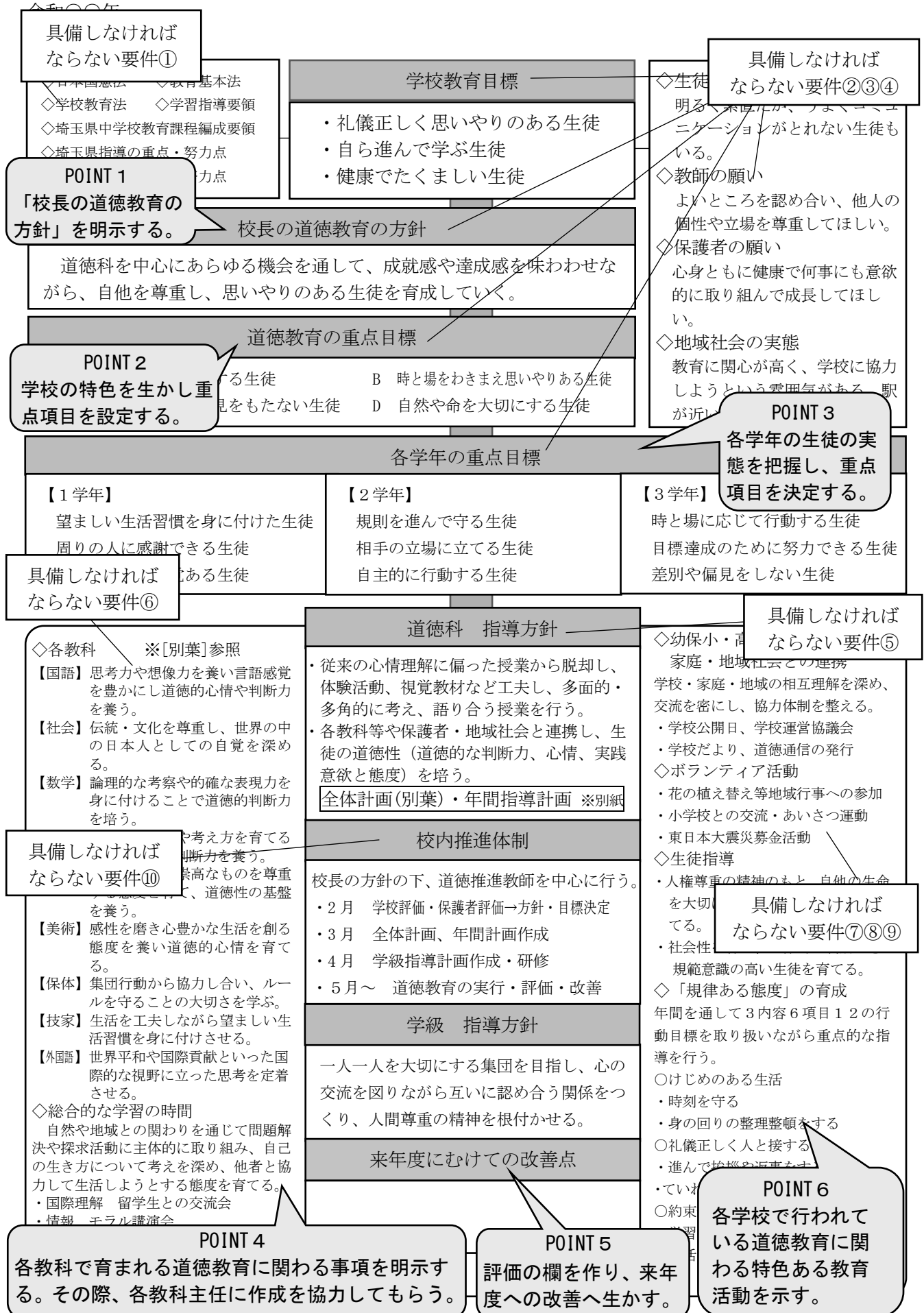
- 評価例→【P271参照】
カリキュラムマネジメントの視点からの改善例
- ① 道徳科を要として、学校の教育活動全体で道徳教育を推進できているか。
 - ② 全教師で全体計画を見直し、改善に努めているか。
 - ③ 地域人材を有効に活用できているか。

4 改善のポイント

- 各学校の特色ある教育活動を生かしながら、重点的な道徳教育を推進できるようにする。
- 学校全体で行う道徳教育について、それぞれの教育活動の役割を明確化する。
- 校長の方針を明確にし、全教師で道徳教育を行う指導体制を明確にする。
- 全体計画の作成には、全教師が関わる。
- 評価を記入できる欄を作成し、次年度に向け計画の改善ができるようにする。

5 具体例

(1) 全体計画の例



(2) 全体計画 別葉の例

ア 指導時期（月ごと）で整理した別葉

1学年の 重点目標	望ましい生活習慣を身に付けた生徒 周りの人に感謝できる生徒 中学生として自覚ある生徒			
内容/月	4月	5月	6月	7月
特別活動 学校行事等	・始業式・入学式【Cよりよい学校生活、集団生活の充実】 ・全校・部活動ガイダンス【C遵法精神、公德心】 ・身体測定【A節度、節制】	・登校指導【B礼儀】 ・中間テスト【A希望と勇気、克己と強い意志】 ・体育祭【Cよりよい学校生活、集団生活の充実】	・学校総合体育大会【A向上心、個性の伸長】 ・二者面談【A向上心、個性の伸長】 ・避難訓練【D生命の尊さ】	・期末テスト【A希望と勇気、克己と強い意志】 ・宿泊学習【D自然愛護】【Cよりよい学校生活、集団生活の充実】
学級活動 生徒会活動	・学級のルール・組織づくり【Cよりよい学校生活、集団生活の充実】 ・生徒会ガイダンス【Cよりよい学校生活、集団生活の充実】 ・奉仕活動・専門委員会【C勤労】【Cよりよい学校生活、集団生活の充実】	・学習の仕方【A希望と勇気、克己と強い意志】 ・体育祭関連【B友情、信頼】 ・生徒会朝会【A自主、自律、自由と責任】 ・奉仕活動・専門委員会【C勤労】【Cよりよい学校生活、集団生活の充実】 ・生徒総会【A自主、自律、自由と責任】	・学級会【Cよりよい学校生活、集団生活の充実】【A節度、節制】 ・生徒会朝会【A自主、自律、自由と責任】 ・奉仕活動・専門委員会【C勤労】【Cよりよい学校生活、集団生活の充実】	・1学期振り返り【Cよりよい学校生活、集団生活の充実】【A節度、節制】 ・夏休みの生活【D生命の尊さ】 ・生徒会朝会【A自主、自律、自由と責任】 ・奉仕活動・専門委員会【C勤労】【Cよりよい学校生活、集団生活の充実】
総合的な学習の時間	・教室環境整備【Cよりよい学校生活、集団生活の充実】	・体育祭準備と事後のまとめ【Cよりよい学校生活、集団生活の充実】	・宿泊学習準備【B思いやり、感謝】【D自然愛護】	・宿泊学習まとめ【D自然愛護】【Cよりよい学校生活、集団生活の充実】
道徳 体験活動、視覚教材等工夫し、多面的・多角的に考え語り合う授業を行う。	・学習に取り組む姿勢【A向上心、個性の伸長】 ・「上級学校を訪ねて」【C遵法精神、公德心】	・学習に取り組む姿勢【A向上心、個性の伸長】 ・「母の誘い」【B思いやり、感謝】	・学習に取り組む姿勢【A向上心、個性の伸長】 ・「私たちの初詣」【A自主、自律、自由と責任】	・学習に取り組む姿勢【A向上心、個性の伸長】 ・「命のタスキ」【D生命の尊さ】
国語	・「声を出す・話し合う・わかりやすく説明する」【B相互理解、寛容】 ・「調べたことを記録する・体験したことを文章に書き留める」【B相互理解、寛容】	・「花曇りの向こう」【B思いやり、感謝】 ・「笑顔という魔法」【B相互理解、寛容】	・「ダイコンは大きな根？」【D生命の尊さ】 ・「ちょっと立ち止まって」【A真理の探究、創造】 ・「ベンチ」【B相互理解、寛容】	・「詩の世界」【D感動、畏敬の念】 ・「空を見上げて」【B思いやり、感謝】【C国際理解、国際貢献】 ・「写真と言葉が生み出す世界」【A自主、自律、自由と責任】
社会 地理 歴史	・「世界のさまざまな地域」【C国際理解、国際貢献】	・「世界のさまざまな地域」【C国際理解、国際貢献】	・「歴史の流れ」【古代文明と宗教】【A真理の探究、創造】 【C我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度】【C国際理解、国際貢献】	・「古代の日本」【A真理の探究、創造】 【C我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度】
地域・家庭 との連携	・入学式・保護者会・PTA総会【C家族愛、家庭生活の充実】	・花の植え替えボランティア活動【D自然愛護】 ・体育祭【C家族愛、家庭生活の充実】	・高校見学【C社会参画、公共の精神】	・保護者会・三者面談・家庭訪問【C家族愛、家庭生活の充実】

イ 内容項目ごとに整理した別葉

3学年の 重点目標	時と場に応じて行動する生徒 目標達成のために努力できる生徒 差別や偏見をしない生徒				
	道徳	学級活動	生徒会活動	国語	社会
A主として自分自身に関すること	自主、自律、自由と責任	「私たちの初詣」【12月】	生徒会朝会【4～10月】 生徒総会【5月】 生徒会役員選挙【10月】	「わたしを束ねないで」【2月】	「現代社会と私たち」【7月】 「暮らしと経済」【10月】
	節度、節制	「父の一言」【4月】	学級会【6月】 1学期振り返り【7月】 2学期の生活について【8、9月】		「暮らしと経済」【10月】
	向上心、個性の伸長	「きらめけ ぼくだけの音色」【10月】	新年の抱負【1月】	『「批評」の言葉をためる』【6月】	
	希望と勇気、克己と強い意志	「心の涼風」【5月】 「ドクトル本多の誕生」【2月】	学習の仕方【5月】 テスト反省と今後の取組み【2月】	「春に」【4月】 「故郷」【8月】	「現代の日本と世界」【6月】

(3) 評価と改善

ア 全体計画について

道徳教育推進教師を中心に全教師で全体計画の評価を行う。年度末には、全体計画について、次年度への改善点を具体的にまとめる。

(全体計画を評価、改善するためのチェックリスト)

道徳教育の全体計画 チェックリスト	評価
1 学校の重点目標、学年の重点目標は生徒の実態に合っているか。	B
2 効果的な研修を実施するなど道徳教育の校内推進体制が機能しているか。	C
3 各教科等における道徳教育を把握し教科間の連携をとっているか。	B
4 家庭や地域社会と連携した道徳教育を計画的に実施しているか。	B
10 定期的に計画の評価を行い、改善点を蓄積し、次年度に生かしているか。	A
〈改善点〉 ・各学年の道徳担当と定期的に授業の状況を報告し合う予定であったが、計画通りに実施できないときもあった。次年度の校内推進体制及び校内推進計画を再度見直す。 ・「発表しやすい雰囲気をつくる」をテーマに研修を行った。その結果、各クラスで活発に意見が出るようになってきたが、「お互いの意見を基にねらいとする道徳的価値についての考えを深める」までには至っていない。次年度は、さらに主体的で対話的な学び合いができるような研修を計画的に実施し、道徳科の授業力の向上に努めたい。	

A できた B まあまあできた C 改善を要する

イ 全体計画別葉について

別葉を身近なところに置き、各教師が、随時気が付いた課題や改善点を別葉に記入しておく。その上で、学期ごとに評価を行い、年度末では次年度に向けての改善点を具体的にまとめる。さらに、内容項目の中で不足している項目をチェックし、生徒の実態に応じて適宜項目を補うことを意識しておく。

(全体計画別葉を評価、改善するためのチェックリスト)

道徳教育の全体計画 別葉 チェックリスト	評価
1 別葉を基に各教科の特質に応じ、道徳の内容を適切に指導しているか。	A
2 体験活動や実践活動が生徒の道徳性育成に寄与する取組となっているか。	B
3 道徳科を要に各教科等との連携を図った指導は重点目標に迫っているか。	B
4 家庭や地域社会と連携して実施する取組の内容と時期は適切か。	C
9 全体的に見て、指導する内容項目のバランスはよいか。	B
10 適宜評価を行い、改善するための資料を蓄積しているか。	B
〈改善点〉 ・国語の古今和歌集の学習時期や社会の「国風文化」の学習時期の頃に、道徳科の「我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度」の授業を行うと、生徒の道徳性を効果的に養える。 ・内容項目として足りないので、地域と連携する機会をもう少し増やしたい。例えば、キャリア教育と関連させて、地域の方をゲストティーチャーとして招き、地域の活動を学ぶ機会を設ける。	

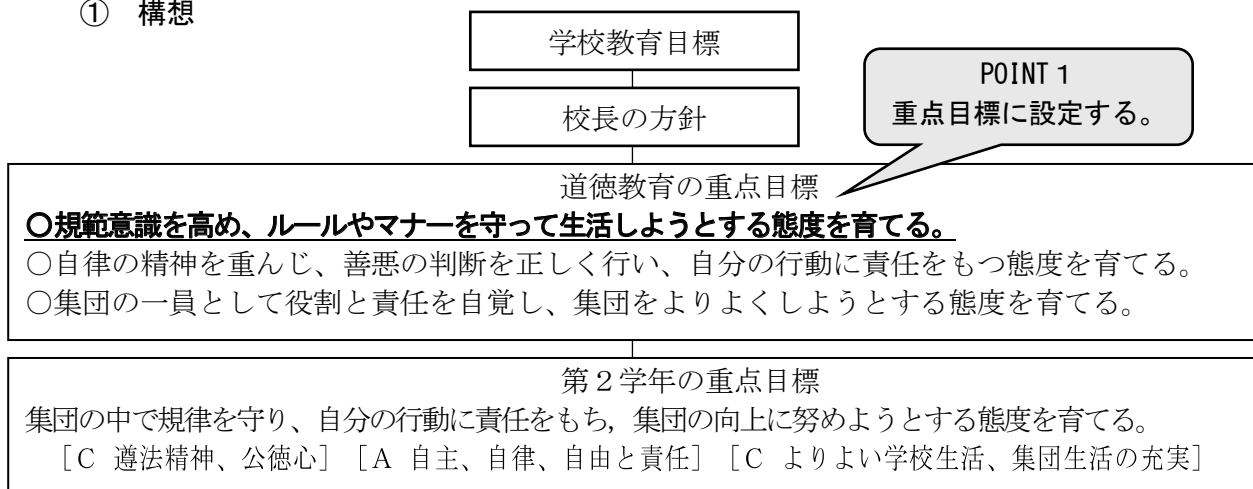
A できた B まあまあできた C 改善を要する

(4) 重点化した計画の例

ア 規範意識を高めることを重視した道徳教育（第2学年）

道徳教育においては、県で取り組む「規律ある態度」の育成をはじめ、人が互いに尊重し協働して社会で形成していく上で求められるルールやマナーを学び、規範意識などを育むことが求められている。道徳科を要とした学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育が、その重要な役割を担っている。

① 構想



② 具体的取組（※は「規律ある態度との関連」を示す）

各教科	全教科「学習のきまり」の確認（※） 保健体育科「球技」（競技のルール） 技術科「情報モラルとコンピュータ」	POINT 2 教育活動の中から、規範意識を育むための取組等を明示する。
教育活動 学校行事等	<ul style="list-style-type: none"> 学級活動「規律ある態度」の調査による実態把握（年度当初） 「規律ある態度」チェックシートによる振り返り（月末） 生徒指導「くつそろえ、3分前着席」（※） 生徒会活動「生活委員会による廊下右側歩行の強化週間」 生徒会活動「生徒会と児童会とが連携した朝のあいさつ運動」（※） 学級活動「学校生活の向上」 	
道徳科	<p>「上級学校を訪ねて」（彩の国の道徳「自分をみつめて」）</p> <p>→きまりやマナーを守ることの意義を自覚し、積極的に社会の秩序と規律を高めようとする態度を育てる。[C 遵法精神、公德心]（※）</p> <p>「日本の全国制覇」（彩の国道徳「自分をみつめて」）</p> <p>→自分の役割と責任を自覚し、集団の目標を達成するために協力し合い、集団を高めていこうとする態度を養う。[C よりよい学校生活、集団生活の充実]</p> <p>ネット将棋」（私たちの道徳 中学校）</p> <p>→自律の精神を重んじ、情報化社会の中で、よりよい行動をとれる態度を養う。 [A 自主、自律、自由と責任]（※）</p>	POINT 3 要となる道徳科では、他の教育活動との関連を図りながら、規範意識を育めるよう工夫する。
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> 「帰宅時刻を守る」「携帯電話の使用時間を守る」「くつそろえをする」など、家庭での約束事を守る指導を徹底してもらう。（※） 「私たちの道徳」を活用し、生活のきまりについて家族と話し合う。 	

③ ②の取組を実施する際の工夫・配慮事項（一部）

<p><各教科・教育活動等></p> <p>生徒指導「くつそろえ」「3分前着席」（※）</p> <p>生徒指導全体を道徳的実践の場と捉え、高めた規範意識を通して、道徳的行為・習慣として行えるように指導する。</p> <p>学級活動「学校生活の向上」</p> <p>学級の課題を見直し、学級をよりよくするためのきまりづくりを通して、きまりを守ることの大切さを考えさせる。また、集団における自分の役割について考えさせる。</p>	POINT 4 学校と家庭が共通理解をもって生徒の規範意識を育てていく。
--	---

イ 体験活動を生かした道徳教育

体験活動を重視した道徳教育を推進するためには、その意義や役割を明確にし、全教職員の共通理解のもとで進めていくことが大切である。また、目指す生徒像に効果的に到達するために道徳教育の視点を特に意識した体験活動を進めていくことが重要である。

① 構想

生徒の実態

- ・自分の進路について明確に考えている生徒が少なく、漠然とした不安を抱えている生徒が多い。
- ・自分の長所を生かし、目標をもって取り組む姿勢が少ない。

POINT 1

生徒の実態を把握し、目指す生徒像を明らかにする。

目指す生徒像

社会の中で、自己を生かし、他と共同しながら自己の人生を切り拓く生徒

POINT 2

体験活動で育まれる道徳性を、他の教育活動で生かせるようにする。

道徳科（重点的指導）

[A 向上心、個性の伸長] [C 勤労] [B 思いやり、感謝]

道徳教育の視点を特に意識した体験活動

総合的な学習の時間：1年「職場体験活動への取組」

2年「福祉活動への取組」

学級活動：3年「自分の進路を見

POINT 3

内容及び時期を明確にした指導計画を作成する。

② 具体的取組（小学校から中学校卒業までを見据えた計画）

時期		内容	
小学校	3年	社会	地域の産業について学ぶ。
		総合的な学習の時間	地域の農業について調べる。
	4年	社会	防災や公共サービス、埼玉県の特徴について学ぶ。
	5年	社会	日本各地の風土や産業について学ぶ。
6年	社会	世界各国の風土や産業について学ぶ。	
中学校1年	1学期	学校生活全般	除草作業を通して奉仕の精神に触れさせる。
	9月	総合的な学習の時間	職業調べや働く人へのインタビュー活動を通して、働くことに対して関心をもたせる。
	11月中旬	総合的な学習の時間 「職場体験活動」	勤労生産、奉仕活動を体験し、勤労の尊さや意義を学ぶ。
	11月	道徳科 「ぼくの職場体験活動」 (彩の国の道徳 自分をみつめて)	勤労の尊さや意義を理解し、勤労を通じて社会の発展に努める態度を育てる。
中学校2年		総合的な学習の時間 「職場体験活動発表会」	保護者を招き、職場体験活動発表会を行い、働くことの意義について、保護者と家庭で考える機会を作る。
		総合的な学習の時間 「福祉活動」	福祉をテーマに、自ら課題を設定し、調べ、解決する。
	3学期	学級活動「上級学校調べ」	上級学校の種類を調べ、自己の進路について考える。
	3月	卒業生に学ぶ会	進路を決定した卒業生から、進路決定までの過程の中での体験を聞き、これからの進路決定に生かす。
中学校3年	4月	道徳科 「縦糸と横糸－秩父銘仙を受け継ぐ－」 (彩の国の道徳 自分をみつめて)	自分の人生をかけて実現すべき価値を見出し、挫折や失敗を乗り越えて理想の実現を目指して自己の人生を切り拓こうとする態度を育てる。
	通年	学級活動	進路学習の中で、自己の生き方について考える。

POINT 4

体験を生かした道徳科の授業を実施する。

ウ 家庭・地域社会との連携を重視した道徳教育

家庭や地域社会との連携、協力を密にし、共通理解を図ることによって、道徳教育を強化させることが大切である。

① 構想及び具体的取組

道徳教育の全体計画の「家庭・地域社会との連携」を受け、

幼・保・小・高・家庭・地域社会との連携

- 学校・家庭・地域の相互理解を深め、交流を密にし、協力体制を整える。
- ・学校公開日、授業参観、保護者会
- ・学校だより、道徳通信の発行、ホームページで公開

【家庭・地域社会の授業参加】

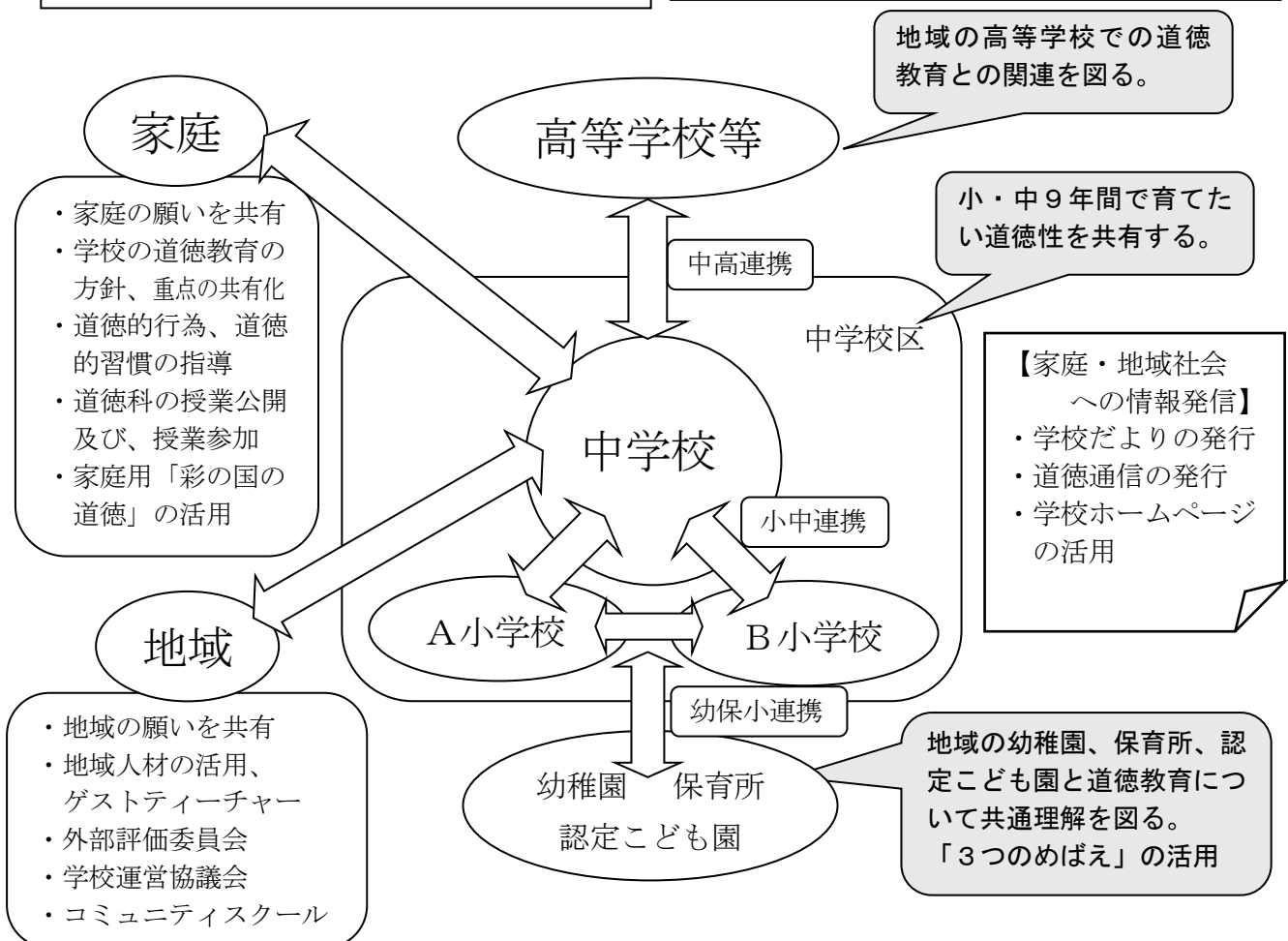
- 学校公開日に全学級で道徳科の授業を公開する。
 - 保護者や地域の方の参加型の授業を行う工夫をする。(話し合いに加わっていただく、終末で語っていただく、など)
- 保護者会の懇談会で、道徳科について話題にする。
 - 授業での学習の様子や、家庭の様子などの情報交換をし、道徳性を養うための話し合いをする。
- 教材を工夫し、地域の方と授業をつくる。
 - 道徳科の授業にTTとして参加していただく。

【家庭・地域社会への情報発信】

- 学校だより、道徳通信を発行する。
- 学校ホームページで道徳の全体計画、授業で扱った教材等を公開する。
 - 学校での出来事、道徳科の授業の様子などを学校より情報発信することで、家庭でも生徒の道徳性を養うための話し合いをしてもらう。

【家庭との連携】

- 家庭用「彩の国の道徳」、「私たちの道徳」を活用する。
 - 家庭で話し合う日を月に1日は設け、話し合いの報告を提出してもらう。



第5 通知表、指導要録における評価

1 通知表と指導要録について

通常、学期又は年間を通して評価を記載するものには、通知表と指導要録の二つがある。学期ごとに通知表に評価し、それを踏まえて学年末に指導要録への評価を記載するという関係は、道徳も他教科等も同じである。

- 通知表・・・公簿ではないが、多くの学校が作成しているもの。
- 指導要録・・・公簿であり、作成が義務付けられているもの。

ここであえて「道徳」という言葉を用いたのは、「道徳科」と「道徳科を除いた道徳教育」の二つに関する評価があるためである。学校における道徳教育は、その要である道徳科を含むものであるが、評価に関しては、道徳科と道徳科以外の道徳教育を明確に分けて行う必要がある。以下に、通知表における道徳の評価と、指導要録における道徳の評価について、それぞれ記す。

2 通知表について

通知表は、指導要録のように法令に定められている諸表簿ではないため作成義務はないが、各学期の生徒一人一人の学習の成果や出席の状況、学校生活の様子などを、家庭に通知・連絡するものとして、多くの学校が作成している。

(1) 道徳科の評価

道徳科の評価は、特別の教科化によって新たに行われるものである。

平成20年改訂以前の学習指導要領における「道徳の時間」については、指導要録への評価記載がないため、通知表においても「道徳の時間」の評価欄を設けていない学校がほとんどであった。平成27年3月の学校教育法施行規則一部改正で、従来の「道徳の時間」が「特別の教科道徳」として位置付けられたことにより、指導要録への記載がされることとなった。これに伴って、多くの学校が通知表においても道徳科の評価を記載する。

なお、道徳科の評価を通知表に記載する場合には、評価について国が示す指導要録の記載に準じることが基本となる。

（「第3章 特別の教科 道徳」の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」の4）

生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすように努める必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする。

一方、通知表の性質を踏まえると、生徒本人や保護者により点や進歩の状況などが具体的に伝わるのが重要となる。したがって、道徳科の評価は、以下の点に留意しながら生徒のよさを積極的に認め、励ます評価となるよう、各教師が創意工夫する。

ア 記入に際しての留意点

- 道徳科の評価欄であるため、道徳科の授業中のことについてのみ記述する。
 - 道徳科以外に様子については「所見欄」に記述し、道徳科の評価欄には記述しない。
 - 記述する内容は道徳科の授業中における学習活動に着目する。
 - 特に重要な視点は、「物事を多面的・多角的に考えている様子」と「道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子」。
 - 大きくりなまとまりを踏まえる。
 - 1単位時間の様子だけの記載では、大きくりなまとまりを踏まえているとは言い難い。
 - 道徳性は評価しない。（諸様相である「道徳的判断力、心情、実践意欲と態度」も。）
 - 以下のような表現とならないようにする。
 - ・～について、～という発言が見られたことから思いやりの気持ちが育ってきた。
 - ・以前に比べて、友情を実現するための判断力が、だいぶ高まってきている。
 - ・～の学習を通して、～規則を守ることの真の意義を理解できた。
 - ・道徳的な心情は育ってきているので、今後は、実践していこうとする意欲も高めていけるとよいでしょう。
- ※ 道徳科は道徳性の育成を期して行うものだが、道徳性が育ったかどうかは容易に判断できるものではないため、道徳性の評価は行わないこととしている。したがって、道徳性を評価しているとの誤解を招かない表記の仕方が求められる。

第1時	第2時	第3時	第4時	第5時	第6時	第7時
第8時	第9時	第10時	第11時	第12時	第13時	第14時
第15時	第16時	第17時	第18時	第19時	第20時	第21時
第22時	第23時	第24時	第25時	第26時	第27時	第28時
第29時	第30時	第31時	第32時	第33時	第34時	第35時

- 道徳的価値や道徳的な事象について、一面的ではなく多面的・多角的な見方をしている。
- 道徳的価値についての理解を自分自身との関わりの中で深めている。
- 自分と違う意見を取り入れながら考えを深めている。
- 道徳的価値が関わる問題を自分のこととして捉え、自分の生き方につなげて考えている。

【評価のための資料】

生徒の発言、話し合いの様子、道徳ノート、作文、感想文、アンケート、役割演技、生徒の自己評価、生徒同士の相互評価、授業記録、板書記録、等から継続的に把握する。

【授業中のメモを活用する】

- S1 主人公の気持ちも理解できる。ごまかしたい時だってあるよ。
 S2 でも、そのあと見つかるのを気にしながら過ごすのは嫌だよ。
 S1 確かに、暗い気持ちでいるのは嫌だな。
 S3 でも、どうしてモヤモヤするのか。
 S2 やったことはよくないことだと分かっているからだよ。
 S1 そうか。自分がしたよくないことは、そのままにしない方がいいんだな。

名簿や授業記録ノート等を活用して生徒の発言等から学習状況や道徳性に係る成長の様子をメモする。毎時間全員を見取することは容易ではないが、学期を通して、生徒全員のメモが残るようにする。時には複数の教師でメモする。

- 今までの話し合いでは、自分の考えを述べられなかった S1 さんが、自分の考えを述べた上に友達の意見を受け入れて考えを深めていた。

【道徳ノートを活用する】

主人公の元さんも、どうすればよいか迷ったと思う。規則は守らないといけないことは分かっていたはずだけど、二人の姉弟の願いをかなえてあげたい気持ちが強かったんだろうな。私も、前に似たようなことがあって、友達の約束があったのに、弟の面倒を見てと親に言われて、結局弟の方を優先しました。

道徳ノート等には、授業を通して学んだことや考えたこと、これからの生き方に生かしたいこと、感想等を書き、回収して可能な限りコメントをして返す。

- 今回の S1 さんの道徳ノートを読むと、主人公の葛藤を自分のことと重ねて捉え、考えることができています。

【生徒の自己評価等を活用する】

①	自分の考えをもち、話し合ったか。	Ⓐ B・C・D
②	友達の考えをしっかりと聞いたか。	A Ⓑ C・D
③	学習を通して自分の考えが深まったか。	Ⓐ B・C・D

授業の終わりに簡単な自己評価を行う。自分のこととして考え、それを発表したか、友達の考えを聞き自分の考えを深めることができたかななどを自己評価する。

- S1 さんの1学期を振り返った評価からは、徐々に話し合いを通して、自分の考えを深めることができるようになってきていることがわかる。

【1学期の通知表の記述例】

- 授業で扱う内容を常に自分のこととして捉え、人としてよりよく生きるために、どのような心をもつべきかについて話し合う姿が見られました。例えば、〇〇を活用した授業では、ごまかしをする主人公に共感しながらも、友達と考えを交流し、誠実に生きる意味について考え、発言していました。
- 教材に出てくる主人公に生じた道徳的な問題と自分の体験を重ね合わせてどうすればよいか考えていました。例えば、規則の尊重について学習した際には、主人公元さんの心の揺れを友達との約束と弟の面倒を見ることのどちらを優先するか迷った時と重ねて考えている記述が見られました。
- 1学期の授業を通して、真剣に自分の生き方を見つめ、人としてよりよく生きていこうという思いを道徳ノートに記述していました。

(2) 道徳教育の評価

道徳科以外の時間で見られた道徳的行為や道徳的習慣は、これまで同様、「所見欄」に記載する。

学校の教育活動全体を通じて行われる道徳教育において見られた生徒の道徳的行為や道徳的習慣については、これまでも「所見欄」に記述して生徒や保護者へ伝えてきた。それは、**今後も変わらない**。ただし、こうした道徳的行為や道徳的習慣を道徳科の評価欄には書かないこと。

【所見欄の記入例】

所見欄	
1 学期	大変気持ちのよい挨拶ができています。任された仕事も責任をもって取り組むことができ、級友からの信頼も厚いです。特に、体育祭では応援団長を務め、声を枯らしながら応援練習に励む姿に白組の士気も大いに高まりました。白組の優勝の立役者と言っても過言ではありません。
2 学期	学校の教育活動を通じて、見られた生徒の道徳的行為や道徳的習慣、道徳性に係る成長の様子を具体的な様子として本人や保護者に伝える。 本所見例では、内容項目「礼儀」や「よりよい学校生活、集団生活の充実」に関わる生徒のよさを伝えている。
3 学期	

3 指導要録について

学校における道徳教育は、当然、その要である道徳科を含むものであるが、評価に関しては、**道徳科と道徳科以外の道徳教育は明確に分けて行うこと**。

(1) 指導要録における道徳の評価について

指導要録には、2つの道徳に関する評価がある。

- 「道徳科」に関する評価・・・・・・・・・・新たに設けられたもの
- 教育活動全体を通じた「道徳教育」に関する評価・・・これまでも行ってきたもの

それぞれの評価について、以下に示す。

(2) 道徳科の評価

ア 平成20年改訂以前の学習指導要領下との比較

- 「道徳の時間」に、評価欄はなかった。
- 「道徳の時間」を含め学校生活にわたって十分満足できる状況にあると判断された生徒の行動については、「行動の記録」に○印を記入してきた。
- 「道徳科」は、「道徳科」のための評価欄を設け、記述する。

イ 道徳科の評価

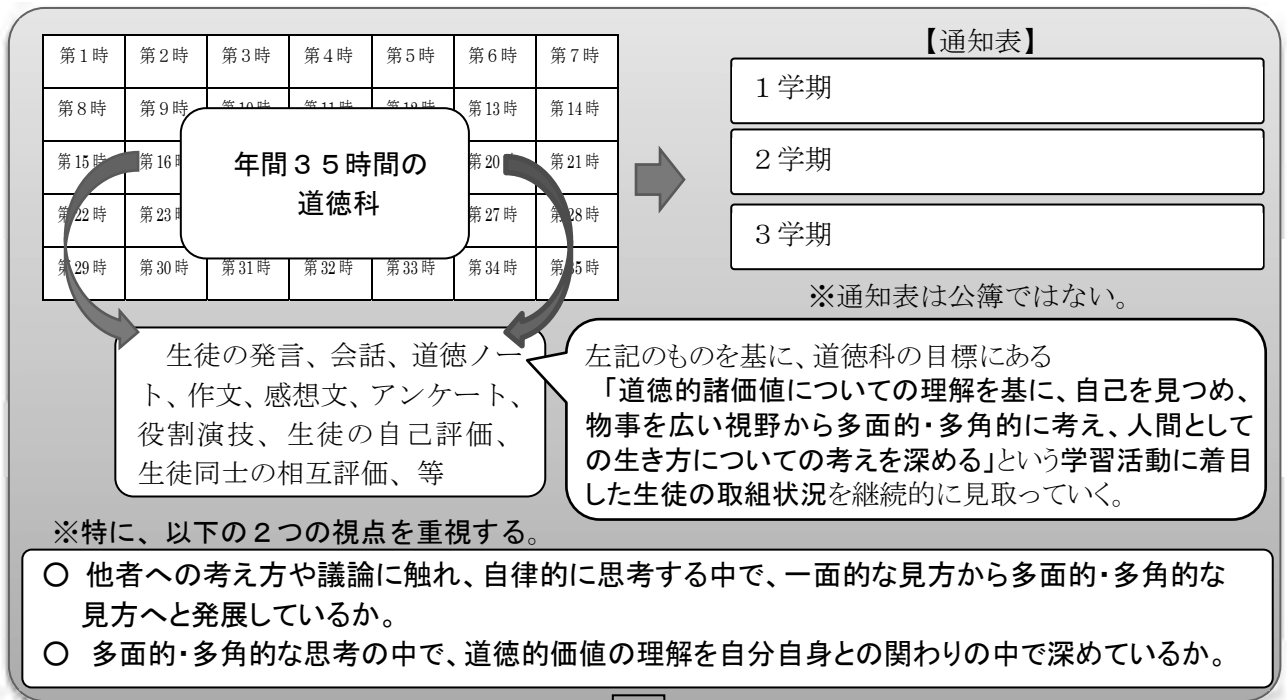
(「第3章 特別の教科 道徳」の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」の4)
生徒の**学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすように努める**必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする。

道徳科の評価を行うに当たり、押さえるべき点として「道徳科の評価で大切なこと！」(P 244 「(2) 道徳科の評価」)を以下に再掲する。

道徳科の評価で大切なこと！

- 学習活動に着目して、生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握する。
- 数値による評価ではなく、**記述式**とする。
- 個々の内容項目ごとではなく、**大きくりなまとまりを踏まえ**評価する。
- 生徒が**いかに成長したか、認め励ます個人内評価**として行う。
- 道徳科は道徳性を養うことをねらって行うが、**道徳性は評価しない**。
- **学習障害等**のある生徒が抱える、学習上の困難さの状況等を踏まえ**適切な配慮**を行う。
- **調査書には記載しない**。
- 学年等で共通理解を図り、**組織的**に行う。

ウ 評価の実際



【指導要録の記入例】

特別の教科 道徳	
学年	学習状況及び道徳性に係る成長の様子
1	複数の道徳的価値が対立する場面で、自分や教材の登場人物が取り得る行動について、その理由を含めて様々な面から考え、話し合っていた。
2	読み物教材の登場人物に託して、道徳的価値に関する自分なりの考えを述べるとともに、価値を実現することの難しさを実体験から記述していた。
3	道徳的価値の大切さを自分の体験と結び付けて考えたことを道徳ノートに継続的に記述し、後の授業でノートを見返し、以前の考えと比較していた。

記入に際しての留意点

- ・ 学習活動に着目した取組状況を記載する。
- ・ 大きくりなまとまりで。
- ・ 道徳性は評価しない。
- ・ 道徳性の諸様相を分節して、観点別評価をしない。

※詳しくは、P275の「通知表の評価」を参照。

(3) 教育活動全体を通じた道徳教育に関する評価

学校の教育活動全体を通じて行われる道徳教育において見られた生徒の道徳的行為や習慣については、これまでも「行動の記録」や「総合所見及び指導上参考となる諸事項」に記録してきた。今後も、以下のような評価の考え方に立ち、生徒のよい点や進歩の状況を積極的に評価していくことは変わらない。

ア 学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育における評価の考え方

生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価するとともに、指導の過程や成果を評価し、指導の改善を行い学習意欲の向上に生かす。

- 共感的な理解に基づき、教師が生徒一人一人の道徳的な成長を温かく見守るもの。
- よりよく生きようとする努力を認め勇気付ける働きをもつもの。
- 生徒自身による道徳的価値に裏打ちされた人間的な成長の振り返りや道徳性の育みを支援するもの。
- 教師と生徒の温かな人格的な触れ合いに基づくもの。

【行動の記録】

十分満足できる状況にあると判断される場合には○印を記入する。

評価項目	学年				
	1	2	3	4	5
基本的な生活習慣					
自主・自立					
責任感					
思いやり・協力					
勤労・奉仕					
公正・公平 等					

- ・ 基本的な生活習慣
- ・ 自主・自立
- ・ 責任感
- ・ 思いやり・協力
- ・ 勤労・奉仕
- ・ 公正・公平 等

【総合所見及び指導上参考となる諸事項】

生徒の優れている点や長所、進歩の状況を取り上げる。

【記入例】

体育祭では応援団長を務め、声を枯らしながら応援練習に励む姿に白組の士気も大いに高めた。任されたことに対して、責任をもって取り組むことができる。



教義指第931号
平成30年1月18日

関係各市町村教育委員会教育長 }
各教育事務所長 } 様

埼玉県教育委員会教育長
(公印省略)

「特別の教科 道徳」における「彩の国の道徳」の活用について

日頃から本県の教育行政について、御理解、御協力をいただき感謝申し上げます。
さて、平成27年3月の学校教育法施行規則並びに学習指導要領の一部改正により、従来の「道徳の時間」が「特別の教科 道徳」として位置付けられ、平成30年度から小学校で、平成31年度から中学校で全面实施となります。

現在、各学校においては、「特別の教科 道徳」の全面实施に向けた準備を進めていることと存じます。

道徳教育の特性に鑑みて、「特別の教科 道徳」では、主たる教材としての教科用図書と併せて、各地域に根ざした地域教材等を活用することが求められております。

本県では、平成21年度に県独自の道徳教材となる「彩の国の道徳」を作成し、以来、各小中学校において活用してまいりました。県の偉人や伝統文化、「規律ある態度」の育成、その他、情報モラルや公共マナーなどの重要な課題を題材として作成した「彩の国の道徳」は、本県児童生徒の道徳性の育成に有効な教材です。

つきましては、「特別の教科 道徳」において、引き続き「彩の国の道徳」の積極的な活用をお願いいたします。なお、その際、教科用図書の使用義務にも御留意願います。

教育事務所にあつては管内の市町村教育委員会に、市町村教育委員会にあつては所管の学校に対して御周知していただくとともに、適切な対応がなされるよう御支援をお願いいたします。

埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課
教育指導担当

TEL 048-830-6748

FAX 048-830-4962

E-mail a6750-3@pref.saitama.lg.jp